

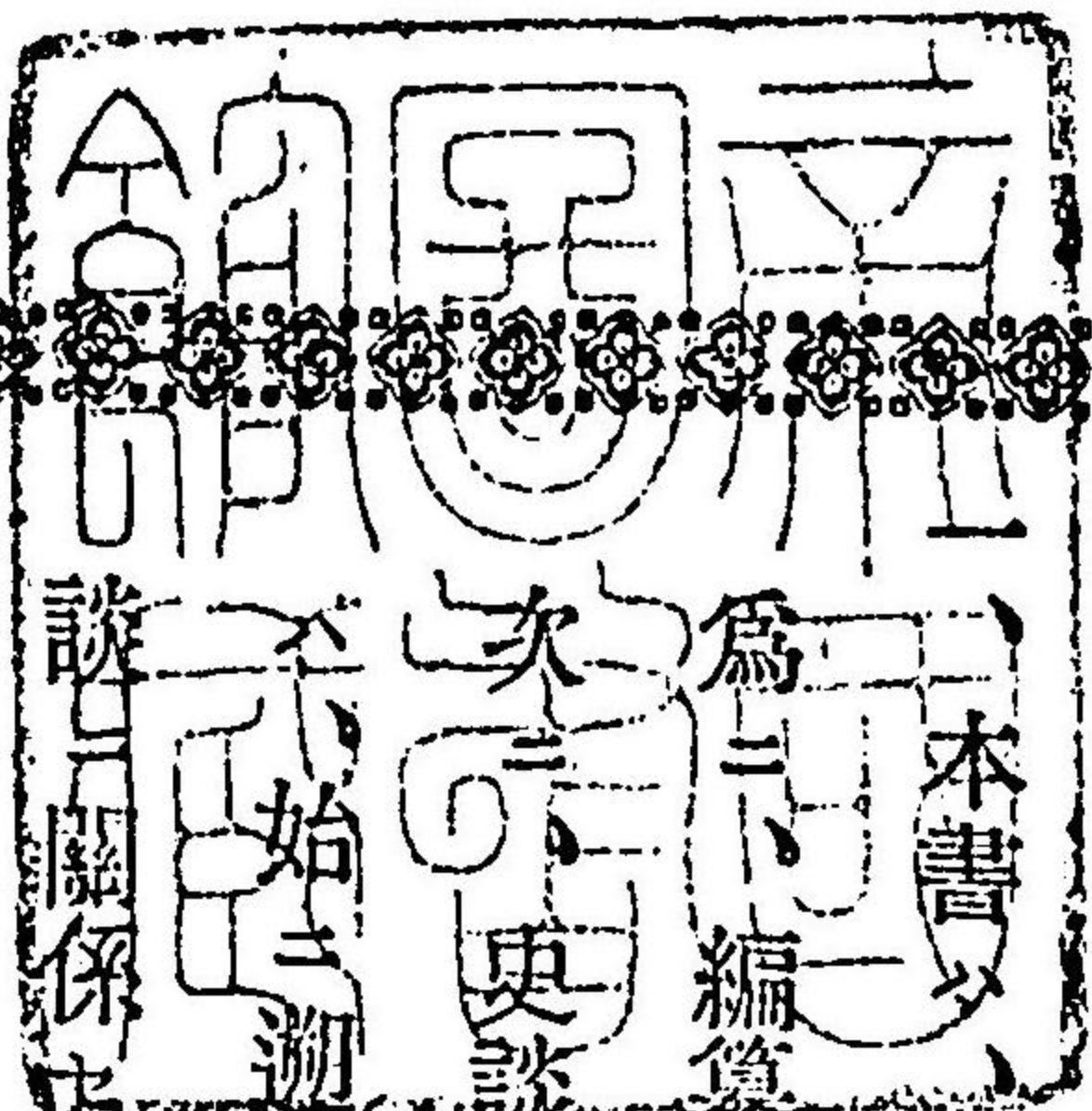
191
341

度會郡誌

完

度會郡誌

例言



本書ハ、度會郡ノ地誌、及ヒ史談ノ大要ヲ知ラシメンカ
 爲ニ、編纂セルモノニシテ、始ニ、本郡地誌ノ概説ヲ掲ケ、
 次ニ、史談ハ、年代ヲ逐ヒテ、記載セリト雖、時ニヨリ、或
 不始ニ溯リ、或ハ、末ニ説キ及ホセル所アリ。而シテ、史
 談ノ關係セル地誌ハ、毎ニ、其ノ條下ニ挿入シタリ。

一、本書ハ、事實、及ヒ年月ノ正確ナランコトヲ欲シ、務メ
 テ博ク、諸書ヲ參考シテ、之ヲ記載セリト雖、其引用セル

書物ニシテ、若シ、誤謬アレハ他日、應ニ之ヲ訂正スヘシ。
 一、足代弘訓翁ハ、専ラ考證ニ力ヲ盡サレタルニヨリ、本書
 ハ、翁ノ遺稿ヲ引用セル所多シ。故ニ、特ニ之ヲ書シテ、
 以テ其ノ據ル所ヲ明ニス。

明治三十年三月

編者識

度會郡誌

目録

◎地誌

- 位置及境界
- 山岳
- 著名ノ地
- 街道
- 幅員及人口
- 川流
- 産物
- 各地ヘノ里程
- 地勢
- 港湾
- 區劃
- 諸ノ統計

◎史談 附關係地誌

- 伊勢國並ニ度會ノ名ノ起リ 附國造ノ始
- 高倉山及岩窟
- 皇大神宮御宮城
- 皇大神宮御遷幸及御鎮座
- 神國ヲ定ム 附神國造、大神主祭官、神席ノ始

○豊受大神宮御遷幸及御鎮座

○豊受大神宮御宮域

○始テ度會郡ヲ置ク

○神三郡及神八郡

○兩宮御遷宮ノ事

○御柚山及御造營ノ事

○金剛證寺

○世義寺

○光明寺

○別宮ノ宮號宣下

○西行法師ノ遺跡

○清盛堤及清盛楠

○熊野ノ僧徒亂入ス

○清盛神都ニ兵糧米ヲ課ス

○守護使不入ノ事

○頼朝神領ヲ押領スルコトヲ禁ス

○齋内親王斷絶ス

○北畠氏伊勢ノ國司トナル

○田丸城

○義良親王戰勝ヲ祈ラル

○神郡始テ武家ノ侵畧ヲ受ク

○山田ノ政事 附三方會合所

○宇治ト山田トノ確執

○北畠氏宇治ヲ助ケテ山田ヲ攻ム

○山田ヨリ宇治ヲ攻ム

○清順尼宇治橋及外宮ヲ造營ス

○鹽合川ノ合戦

○信雄御供料ヲ寄附ス

○多氣度會蒲生氏ノ領トナル

○周養尼兩宮ヲ造營ス

○朝熊攻

○浦田坂ヲ開ク

○上部貞永政ヲ執ル

○秀吉兩宮ニ寄附シ且檢地ヲ止ム

○中嶋合戦

○福原右馬助

○徳川家康ヨリ朱印ヲ賜フ

○山田奉行

○家康兩宮造營ニ付寄附ス

○宮川ノ堤ヲ築ク

○二見郷ヲ神領ニ復ス

○福嶋正頼

○前山ヲ神領ニ復ス

○岡本ニ通スル道ヲ開ク

○宮川堤ヲ嚴重ニス

○豊川ノ新道ヲ造ル

○豊宮崎文庫ヲ建ツ

○秋田城之介實季

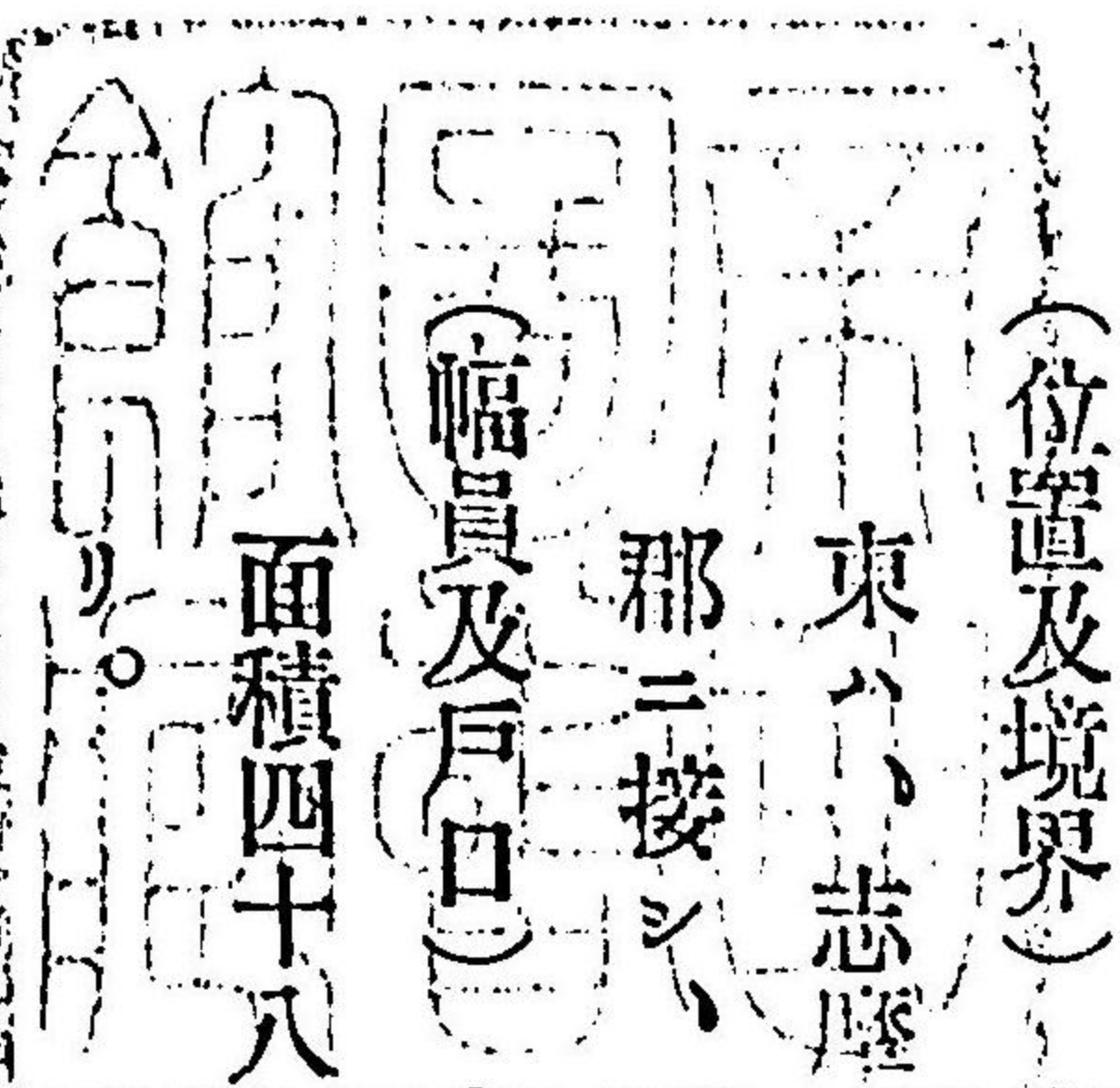
- 月讀宮ノ宮域ヲ古ニ復ス
- 山田ノ大火事
- 寺院ヲ野外ニ退ク
- 宮川堤ノ上ニ棒堤ヲ築ク
- 拔ケ參リ
- 明和ノ御蔭參リ
- 大岡越前守
- 内宮火除地ヲ設ク
- 兩宮ノ護衛兵及海岸防禦
- 最近ノ御蔭參リ
- 度會郡古今ノ名家
- 尾上坂ノ墓ヲ妙見山ニ移ス
- 宮城外ニ火除地及百間堀ヲ設ク
- 宮川ノ渡ヲ無錢トス
- 林崎文庫ヲ創立ス
- 寶永ノ御蔭參リ
- 文政ノ御蔭參リ
- 僧月僊
- 足代弘訓
- 外宮ノ入口ニ番所ヲ建ツ
- 明治年表

度會郡誌目錄終

度會郡誌

小川 稗吉 編

◎地誌



(位置及境界) 度會郡ハ、伊勢國ノ南部ニ位シ、國內第一ノ大郡ナリ。
 東ハ、志摩國ニ連リ、南ハ大平洋ニ臨ミ、西南ハ、紀伊ノ北牟婁郡ニ接シ、西ヨリ北ハ、多氣郡ニ界シ、東北ハ伊勢海ニ面ス。
 (幅員及戸口) 東西十里十八町四十三間、南北六里二十八町十九間、面積四十八方里、戸數二萬〇七百六十戸、人口十一萬八千三百アリ。

(地勢) 東ヨリ、西南ニ亘リテハ、山岳重疊シ、次第ニ高クナルヲ以テ、河流ハ、皆西ヨリ東ニ流ル。而シテ、北部、即宮川ノ河口近傍ハ、平野ニ屬シ、田野能ク開ケ、南部ノ大平洋ニ面セル海岸ハ、

屈曲甚タシク、隨ヒテ港灣多シ。

(山岳) 志摩ノ界ニ、朝熊山、山伏峠、逢坂山アリ。五十鈴川ノ上流ニハ、島路山、神路山アリ。ソレヨリ西南ニ當リテ、龍ヶ峠、袴腰山、切原峠アリ。ユレヨリ南一帯ヲ、南島ト云ヒ、モト志摩國ニ屬セシカ、今ハ度會郡ニ屬セリ。而シテ一之瀬ヨリ、道方村ニ至ルニハ、能見坂アリ(コノ麓ニ鷄石アリ)牟婁郡ノ界ニハ、荷坂峠アリ。多氣郡ノ界ニ、國東山アリ。其ノ他、高倉山(外宮御山)鼓ヶ岳(宮本村)貝吹山(四郷村)等皆有名ノ山岳ナリ。

(川流) 宮川ハ、又、度會川ト云フ。伊勢國內第一ノ大河ニシテ、源ヲ大臺ヶ原山ヨリ發シ、郡内ヨリ出ツル、大内山川(又野後川)、一ノ瀬川、横輪川ヲ合セ、宇治山田町ノ西北ヲ流レテ、伊勢海ニ注ク、長サ三十三里ニ及ヒ、舟楫ノ便アリ。

●五十鈴川ハ、又、御裳濯川ト云フ。水源二派アリ。一ハ、神路山ヨリ發シ、一ハ、島路山ヨリ出テ、共ニ、皇大神宮宮域ノ南ニ於テ、相合シ、宇治、及四郷村ヲ經テ、二派ニ分レ、一ハ松下、江村ノ間ヨリ、二見浦ニ注キ、一ハ沙合ニ至リ、勢田川ト合シテ海ニ入ル、長サ四里アリ。

●勢田川、又、小田川ト云フ。鼓ヶ岳ヨリ發シ、宮崎ノ間ヲ流レ、河崎ヲ經テ、二派トナリ、神社、大湊ニ至リ、宮川ノ末流ト合シテ内海ニ注ク、長サ三里アリ。

(港灣) 宇治山田町大字河崎ハ、水陸ノ運送共ニ便利ニシテ、百貨悉ク集リ商業最盛ナリ。神社港ハ、縣内ノ要港ニシテ、贄崎、四日市、熱田、及ヒ豊橋へ、漁船ノ往來アリ。大湊ニハ、造船場ヲ設ケ贄浦ハ、漁船ノ便アリ。其ノ他、五ヶ所港、礫港、神前浦、古

和浦等ハ、南島ノ要港ニシテ、和船常ニ碇泊セリ。

(著名ノ地) 本郡ハ、古ヨリ、神郡ト稱シ、恐レ多クモ、

皇大神宮、及ヒ、豊受大神宮ノ御鎮座マシマス所ナリ。神路山ハ、皇大神宮ノ御山ニシテ、五十鈴川ノ清流、其ノ麓ヲ流レ、上流ニ、鏡石、大瀧、小瀧ノ勝地アリ。高倉山ハ、

豊受大神宮ノ御山ニシテ、山巔ニ有名ノ岩窟アリ。兩宮附屬ノ神苑ハ、大ニ風致ニ富ミ、宮域ノ近傍ヲシテ、自ラ清淨ナラシメ。

豊宮崎文庫ノ御屋根櫻(祠官出口延佳ノ屋根ニ生セシ櫻ヲ植エシヲ以テ名付ク)宮川堤ノ櫻ハ、世ニ

名高ク、二見浦ノ風景ハ、頗佳ニシテ、立石ノ奇巖、富岳ノ遠望

ハ、世人ノ常ニ賞歎スル所ナリ。其ノ他、賓日館海水浴ノ設アリ、伊勢ノ濱荻ハ、又、片葉ノ蘆ト稱ヘ、此ノ地ニ古蹟アリ。朝熊山、切原峠、能見坂ハ、本郡ノ三眺望ニシテ、圖畫モ及ハス、南島ハ、

伊勢松島ト稱シ、各島悉ク松ヲ生シ、灣内鏡ノ如ク、風光誠ニ絶佳ナリ。野後及ヒ阿曾ノ炭酸泉ハ、効驗多ク、木葉石ノ生スルモ亦奇ナリ。其ノ他、野後ノ大瀧、一ノ瀬ノ鸚鵡石等、共ニ郡内ノ勝地タリ。

(産物) 諸川ノ沿岸ヨリ、山間ノ谿谷ニ至ル迄、田野能ク開ケ、多ク米穀ヲ産ス。殊ニ、宮川河口ノ平野ハ、野菜ノ産出多ク、上流ノ沿岸ハ、茶ニ摘セリ、郡内、山岳重疊セルヲ以テ、隨ヒテ材木、薪炭ニ富ミ、地層ハ、多ク石灰岩ヨリ成ルヲ以テ、石灰ヲ出ス所多シ。伊勢海岸ハ、製塩ノ業開ケ、大平洋岸ハ、海産ノ利夥シ、其ノ他、製造物ニハ、宇治山田町ニ於テ、春慶塗、傘紙、御山杉細工、煙草入、合羽等アリ、二見ニ於テハ、貝細工、飴等アリ。

(區劃) 全郡ヲ、四ヶ町、三十一ヶ村ニ分ケ、各町村ニハ、町村役場

ヲ置キ、且郡役所ヲ、宇治山田町大字岩淵町ニ設ケ、以テ之ヲ治ム。其ノ區劃、左ノ如シ

○宇治山田町（戸數五千九百、人口二万九千七百）（印、町村役場所在地）

館町、今在家町、中之切町、浦田町、櫻木町、中之町、古市町、

久世戸町、倭町、尾上町、●岡本町（裁判所、郵便電信局アリ）岩淵町、吹上町、

河崎町、船江町、一之木町、豊川町、田中々世古町、宮後町、一

志久保町、大世古町、曾禰町、八日市場町、下中之郷町、常磐町、

浦口町、二俣町、辻久留町、中島町、宮川町、

○神社町（戸數五百四、人口二千七百）

●神社港、竹ヶ鼻村、小木村、下野村、馬瀬村、

○大湊町（戸數四百十五、人口二千三百三十）

○田丸町（戸數四百二十五、人口二千三百四十）

●田丸町、佐田村、下田邊村、上田邊村、

○宮本村 勢田村、旭村、藤里村、●前山村、大倉村、佐八村、津

村、

○沼木村 圓座村、神菌村、●上野村、横輪村、上村、下村、菖

蒲村、床ノ木村、

○四郷村 北中村、●楠部村、一字田村、朝熊村、鹿海村、

○東二見村 松下村、●江村、三津村、

○西二見村 ●山田原村、溝口村、莊村、西村、今一色村、

○濱郷村 ●黒瀬村、神田久志本村、田尻村、通村、一色村、

○御菌村 高向村、長屋村、新開村、●王中島村、上條村、小林村、

○豊濱村 磯村、野依村、檜原村、●土路西條村、植山新開、

○北濱村 有瀧村、●村松村、東大淀村、柏村、野村、

○小俣村

○有田村

湯田村、新村、井倉村、●長更村、中樂村、久保村、妙法寺村、岡村、谷村、門前村、阪本村、玉川村、世古村、

○東外城田村

東原村、●蚊野村、野篠村、矢野村、積良村、山神村、田宮寺村、勝田村、

○城田村

●上地村、中須村、川端村、宮古村、岡出村、富岡村、●小社會根村、栗野村、山岡村、中角村、岩出村、晝田村、

○下外城田村

葛原村、大野木村、●棚橋村、牧戸村、平生村、大久保村、立岡村、鯉川村、當津村、田間村、上久具村、

○內城田村

下久具村、

○中川村

長原村、阪井村、麻加江村、●田口村、注連指村、

○七保村

野原村、●野添村、金輪村、永會村、打見村、神原村、

○瀧原村

三瀨川村、船木村、●野後村、阿曾村、

○柏崎村

柏野村、●崎村、

○大内山村

駒ヶ野村、小川村、火打石村、日向村、栗原、五ヶ町村、●中之郷村、川口村、

○一之瀬村

南中村、川上村、脇出村、●市場村、和井野村、小萩村、柳村、

○島津村

新桑竈、棚橋竈、●古和浦、朽木竈、小方竈、方座浦、

○吉津村

村山村、●神前浦、河内村、

○鴉倉村

東宮村、奈屋浦、贄浦、●慥柄浦、

○中島村

●道方村、大江村、道行竈、阿曾浦、大方竈、

○穗原村 押淵村、始神村、齋田村、●伊勢路村、内瀬村、

○南海村 迫間浦、相賀浦、●礪浦、

○五ヶ所村 船越村、中津濱浦、●五ヶ所浦、切原村、飯満村、

○宿田曾村 ●宿浦、田曾浦、

○神原村 泉村、●神津佐村、下津浦村、木谷村、栗木廣村、檜山

村、山原村、(大字三十一ヶ町
百七十七村)

(街道)

一 伊勢街道(國道) 小俣村ヨリ、宇治山田町大字館町ニ至ル。

二 和歌山別街道(假定) 宇治山田町大字中島町ヨリ、東外城田村大

字東原多氣郡界ニ至ル。

三 熊野街道(同上) 瀧原村大字船木ヨリ、大内山村北牟婁郡界ニ至

ル。

欠

MISSING

四 鳥羽街道(同上)宇治山田町大字河崎町ヨリ、四郷村大字朝熊志
摩國界ニ至ル。

五 神社港道(同上)宇治山田町大字宮後町ヨリ、神社町大字神社港
ニ至ル。

(各地へノ里程) 宇治山田町大字岡本町元標ヨリ

- | | | | |
|-------|---------|--------|---------|
| ●神社港へ | 一里十六町 | ●大湊へ | 一里三十町 |
| ●田丸へ | 二里一町 | ●二見へ | 二里十町 |
| ●鳥羽へ | 四里二十町 | ●一之瀬へ | 六里二十六町 |
| ●五ヶ所へ | 七里十町 | ●瀧原村へ | 十一里二十町 |
| ●島津村へ | 十五里二町 | ●大内山村へ | 十五里十八町 |
| ●松坂へ | 五里十一町 | ●津市へ | 九里三十三町 |
| ●神戸へ | 十五里二十七町 | ●關へ | 十五里三十一町 |

- 龜山へ 十七里十一町
- 桑名へ 二十二里十五町
- 滋賀へ 三十二里
- 京都へ 三十五里三町
- 和歌山へ 六十一里八町
- 静岡へ 七十五里廿八町
- 東京へ 百二十四里廿町
- 四日市へ 十八里二十五町
- 名古屋へ 三十里三十一町
- 奈良へ 三十二里十二町
- 大坂へ 四十六里廿三町
- 豊橋へ 四十六里三十町
- 金澤へ 八十二里卅五町

(諸ノ統計)

(度會郡治一覽ニヨル)

- ◎民有反別 五萬二千八百八十八町餘
- ◎同 地價 四百十一万二千六百十四圓餘
- ◎内 田 六千〇五十町 (地價) 二百七十五万八千五百圓
- ◎畑 三千二百一町 (同) 七十四万五千六百五十圓

- ◎山林 四万七千七百五十町 (同) 八万六千四百五十三圓
- ◎塩田 四十八町 (同) 一万二百十八圓
- ◎耕作業 一万五千〇八十戸
- ◎漁業 二千四百七十戸
- ◎職工 大工 六百九十人 木挽職 四百三十人
- 鍛工 二百三十人 船大工 百九十人
- 桶工 百二十人 石工 六十人
- ◎神社 五百四十九
- ◎寺院 二百十六

◎農産物

- 米 七万千五百石
- 裸麥 二万五千百石
- 大麥 一万二千六百石
- 糯米 七千五百石
- 甘薯 四十三万五千貫
- 藍葉 十五万四千貫
- 葉烟草 二万七千五百貫
- 實綿 三千八百五十貫

◎製造物

- 炭 九十九万四千貫
- 製茶 四万〇九百貫
- 椎茸 八百六十貫
- 瓦 九十二万枚
- 刃物 三十九万八千個
- 漆器 二十五万个
- 紙 二万六千六百貫
- 醤油 四千石
- 食塩 二万六千六百石
- 種油 四百六十石
- 醋 千石
- 石灰 八十七万五千貫
- 製藍 六千八百貫
- 生糸 八百四十貫
- 苧 四十二万枚
- 紙葺入 三十万八千個
- 傘 十二万本
- 足袋 七万八千足
- 味噌 二十六万四千貫
- 清酒 千三百石
- 荏油 二百三十石
- 飴 千三百三十貫

◎水産物

(金額ヲ掲ク)

- 鯉 四万八千八百圓
- 鱈 二万九千五十圓
- 海羅 五千四百三十圓
- 鹿尾菜 五千八十三圓
- 乾魚 四千二百圓
- 鯉節 四万八千五百圓
- 鰯 八千圓
- 鹽魚 五千三百六十圓
- 鯛 五千二十圓
- 雜魚 四千百五十圓



史談

附關係地誌

○伊勢國並ニ度會ノ名ノ起リ 附國造ノ始

神武天皇、東國ヲ征シ給フトキ、天日別命ニ詔シテ、東方ヲ平ケシム、伊勢津彦ト云フモノアリ、命ニ從ハス、乃兵ヲ發シ、之ヲ伏ス、天皇大ニ歡ヒ、詔シテ、國神ノ名ヲ取リ、伊勢國ト號セ、天日別命ニ賜フ。コレ度會神主ノ祖先ニシテ、子孫代々、伊勢國造ニ任セラレタリ。

(伊勢風土記)

天日別命、國ヲ覓メシ時、賀利佐嶺(今ノ高倉山)ニ火氣起ル、乃使ヲ遣シ、之ヲ見セシメシニ、大國玉ノ神アリ、進ミテ、賀利佐ニ到ル。時ニ、大國玉ノ神、天日別命ヲ迎ヘン爲、橋ヲ造ラシメ、未タ成ラサリケレハ、梓弓ヲ以テ、橋トナシ、彌豆佐々ミヅササ良姫ノ命ト共ニ、土橋郷、岡本村ニ迎ヘタリ。天日別命、地主ノ參り會ヘルヲ歡ヒテ、刀自ニ度り會

ヒヌト曰ハレ、ソシヨリ度會ト名付ケタリ。(同上)

土橋ハ後、繼橋ト改ム

○高倉山、及ヒ岩窟

高倉山ハ、高二百尺、周圍九町餘アリテ、豊受大神宮ノ御山ナリ。舊記ニ、多賀佐ノ山、或ハ高座ノ山ト記シ、高キ御山ト云フ意ナルヘシ、後世、座チくらト讀ミ、高倉山ト書セシナラン。一名チ、加利佐我嶺、日鷲山、音無山ナドト云フ。

神苑ノ東端、高神山ノ麓ヨリ、十町五十四間ニシテ、高倉山ノ岩窟アリ、俗ニ天ノ岩戸ト云フ。此岩窟ハ、春日戸高座神、伊勢津彦神等ノ石窟ナリト云ヒ、又天日別命ノ居所トモ云フ。蓋シ穴居ノ遺跡ナルヘシ。洞口ハ、南ニ向ヒ、兩壁、石ヲ以テ疊ミ、今殘レル天井ハ、口奥トモ、總テ九枚ノ大石ヨリ成レリ。以前ハ、猶深クシテ、火チ點シ、諸人ニ參詣セシメシカ、維新ノ際、之ヲ廢シテ、入口チ壞リ、天井ニ

用井シ平石ノ一枚ハ、今外宮域内、多賀宮ニ至ル、御池ノ末流ニ架セリ。岩窟現存ノ間數、左ノ如シ。

- 入口 高一間半 幅一間 奥行四間
- 奥 高二間 幅一間半 奥行五間半

○皇大神宮、御遷幸、及御鎮座

謹ミテ按スルニ、皇大神宮ハ、天照大神チ齋キ奉レル大宮ニシテ、大神チ、又、大日靈貴ト稱ヘ奉ル。即、天皇陛下ノ大御祖ニ座シマシテ齋キ祀レル御靈代ハ、石凝姥神ノ造リ奉リシ、八咫ノ御鏡ナリ。皇孫、天津彦火瓊杵尊ノ、此ノ國ニ降臨シ給フトキ、此ノ寶鏡ヲ視ルコト、吾チ視ルカ如クセヨト詔リシテ、授ケ給ヒ、夫ヨリ、代々ノ天皇、殿チ同シクシテ、齋キ祀ラレシカ、崇神天皇ノ六年、(紀元五六九)九月、神威チ畏ミ給ヒ、倭ノ笠縫邑ニ、磯城ノ神籬ヲ立テ、神鏡、及ヒ草薙劍チ

祀ラレ、皇女豊鋤入姫ノ命ヲシテ、奉祀セシメラレタリ。

●御巫清直翁ノ説ニ、笠縫邑ニ移シ奉ルト言フハ非ナリ。笠縫邑トハ、後世、ニ名ツケシ地名ニシテ、其ノ當時ハ、磯城宮ノ域内ニ、神籬ヲ立テ、奉祀セラレシナリト、併セ記シテ後考ヲ待ツ。

其ノ後、三十九年(六〇)ニ至リ、但波ノ吉佐宮ニ遷幸セラレ、又倭ノ國ニ還ラレ、次テ、木ノ國(紀伊)吉備國ニ遷幸セラレ、再ヒ、倭ノ國ニ還ラレシカ、豊鋤入姫命、年老イ給ヒシニヨリ、更ニ、倭姫命ヲ、御杖代ト定メ給ヒ、大和、伊賀、淡海、美濃、尾張ヲ經テ、伊勢ノ桑名ニ遷幸セラレ、次テ、鈴鹿、一志、飯野ヲ經、櫛田ヨリ、御船ニ乗り給ヒ、佐々牟江(今ノ大淀ノ邊)ヨリ、伊蘇ノ宮ニ遷幸セラル、時ニ南ノ山ニ、吉キ宮所アラント詔ヒ、宮川ノ上流ニ溯リ、相鹿瀨、御瀨ヲ經テ、瀧カ原ノ宮ニ御鎮座四年、更ニ、大宮地ヲ覓メ給ヒテ、和比野、久求、目

氏野、都不良、澤道(今ノ佐八)ヲ經、御船向田ノ國(高向)ヨリ、御船ニ乗り給ヒ、水門(今ノ大湊)ヨリ二見ノ濱ニ着キ給フ、時ニ、佐見都日女堅塩ヲ奉レリ、(以後御鹽殿ヨリ絶エス調進ス)ソレヨリ五十鈴ノ入江ニ入り給ヒ、江ノ社ヲ定メ、御津浦、大屋門、鹿海ヲ經、佐古久志呂、宇遲ノ國ニ着キ給ヒ、爰ニ、始テ、五十鈴ノ河上ニ、大宮地ヲ定メラル、時ニ、垂仁天皇ノ二十六年(六七)九月十七日ニシテ、別殿ニ奉祀セラレテヨリ八十九年ニ當ル(度會延佳遷幸要略)

○皇大神宮、御宮域、

皇大神宮、域内ノ反別ハ、六十七町三反四畝二十二步、大宮院ノ建物ハ二十二ヶ所、域内ノ建物ハ、二十四ヶ所、又附屬ノ神苑ハ、二町五反一畝三歩アリ。

○一ノ鳥居 域内ノ御池ヨリ流ル、川ニ架セリ。皇大神宮、表ノ參道

ナリ。

○神宮司廳 橋ヲ渡リテ左ニアリ。

○一ノ鳥居 參道ノ正面ニアリ。皇大神宮第一ノ鳥居ニシテ、從前ハ、是ヨリ内、兵仗、及ヒ佛具ヲ携ヘテ入ルヲ禁セリ。

○行在所 一ノ鳥居ノ内、參道ノ左ニアリ。

○參集所 行在所ノ東ニアリ。

○祓所 參道ノ右ニアリ。二ノ鳥居ノ祓行事ニ仕ヘ奉ル神官ノ祓ヲ修ムル所ナリ。神宮大祓、及ヒ、神武天皇、孝明天皇ノ遙拜等ハ、皆此所ニテ行ハル。

○手水場 祓所ノ南、五十鈴川ノ岸ニアリ。

○二ノ鳥居 此所ニテ、官幣以下ヲ淨ムル行事アリ。皇族ノ下馬モ此所ナリ。

○時雍館 御神樂殿ノ附屬ニシテ、撤下ノ御寶物ヲ陳列ス。

○御神樂殿 參道ノ左ニアリ。衆庶ノ志願ニヨリ、御神樂ヲ奏シ、御饌ヲ供進スル所ナリ。

○五丈殿 御神樂殿ノ東、參道ノ北ニアリ。(外宮ノ所參照)

○酒殿 五丈殿ノ北ニアリ。神酒ヲ醸ス所ナリ。前ニ蕃屏アリ

○忌火屋殿 五丈殿ノ東ニアリ。祭典ノ時、御饌御贄ヲ調理スル所ナリ。

○荒祭宮遙拜所 參道ノ左ニアリ、皇大神宮ノ別宮、荒祭宮ノ遙拜所ナリ。

○紉種石 板垣西御門外、北側ニアリ、此ノ石ハ、元、五十鈴川ノ上流ニアリシヲ、天明年中(二四四五)御造營ノ時、中村ノ人民、之ヲ獻スル爲、運送ニ多クノ年月ヲ費シ、紉種マテモ、喰ヒ盡シテ、之ヲ

宮域ニ曳キ込ミシ故、カク名付ケタリトソ。

○玉串行事所 參道ノ兩側ニ、版位ヲ設ク、

○御贄調舎 板垣御門ノ南、石段ノ下ニアリ。傍ニ五尺許ノ石垣アリ。

豊受大神ノ御座ト云フ。蓋豊受大神ヲ、此處ニ迎ヘ奉リ、御贄調
理ヲ仕ヘ奉ルナリ。

○蕃屏 板垣御門ノ前ニ建テアリ。東西南北皆同シ。

○板垣鳥居 内ヨリ四重目ノ御垣ニツキタル鳥居ナリ。

○外玉垣御門 内ヨリ三重目ノ御垣ニツキタル御門ナリ。

○中ノ重ノ鳥居 外玉垣御門ノ内ニアリ。八重櫛ノ鳥居トモ云フ。

○石壺 中重鳥居ノ左右ニアリ。

○四丈殿 中重鳥居ノ東ニアリ。官幣ヲ點檢スル所ナリ。

○内玉垣御門 二重目ノ御垣ニツキタル御門ナリ。

○蕃垣御門 内玉垣御門ト瑞垣御門トノ間ニアリ。俗ニ猿頭御門トイ
フ。

○瑞垣御門 一重目ノ御垣ニツキタル御門ナリ。

○正殿 天照大神ヲ祀ル。〔堅木、十本、千木、水平ニ伐レリ〕
相殿神 東 天手力雄命。

西 萬幡豊秋津姫ノ命又拷カク擗ハタ干々姫ノ命。

○東西寶殿 瑞垣ノ内、正殿ノ後左右ニアリ。〔外宮ト異ナリ〕

○外幣殿 板垣ノ外、乾ノ角ニアリ。南面ス。

○御稻御倉 外幣殿ノ南ニアリ。東面ス。

○其ノ他内御厩、中御厩、外御厩等アリ。



○別宮。

(堅木六本、攝社末社ハ四本)
(千木水平)

- 一 荒祭宮 正殿ノ北ニアリ、大神ノ荒魂ヲ祭ル(瀬織津姫命)
- 二 風日祈宮 風宮橋ヲ渡リテ右ノ方ニアリ、級長津彦命(シナツヒコ)、級長戸邊命(シナナト)ノ二座ヲ祭ル。

- 三 月讀宮(月夜見命) 月讀荒魂宮(荒魂命)

- 四 伊佐奈岐宮(伊弉諾尊) 伊佐奈彌宮(伊弉册尊)
(三二)(四)ノ四宮ハ、北中村ノ同境内ニ並ヘリ。

- 五 瀧原宮(速秋津彦命) 瀧原並宮(速秋津姫命)
上ノ二宮ハ、野後村ニアリテ同境内ニ並ヘリ。

- 六 伊雜宮(イザノ) 伊佐波登美命(イサハトミ)、玉柱屋姫命ノ二座ヲ祭ル。
志摩國志摩郡磯部村ニアリ。
(神號ハ度會延經)
(神名略記ニヨル)

○神國ヲ定ム 附、神國造、大神主、祭官、神庖ノ始

大御神ヲ、伊須々宮ニ鎮メ祀リ給ヒシ時、大若子命(ニニ大幡)、御供ニ仕へ奉リ、申シテ曰ク、我カ遠祖、天日別命ノ賜ハリシ伊勢國ノ内、磯部川ヨリ東ヲ、大御神ニ奉リ、自ラ神國造トナリテ、長ク仕へ奉ラント、天皇、即之ヲ許シ、磯部川ヨリ、東ノ地ヲ、神國ト定メ、大若子命ヲ、神國造トシ兼テ大神主ニ任セラレ、大鹿島命ヲ、祭官ト定メ給フ。
(大神宮本記) ●磯部川ハ飯高飯野ノ界ニ
(大同本記) アル川ナレト今詳ナラス 此ノ時、特ニ、有爾郷島
墓村ニ、神庖ヲ造リ、租税ヲ徵シ、貢物ヲ収メシム。

○豊受大神宮、御遷幸、及ヒ御鎮座

雄略天皇二十二年(三一)七月七日大佐々命(大若子命)ニ詔シ豊受大神ヲ、丹波國(今ハ)比治ノ眞井原(吉佐)ヨリ迎へ奉リ、倭、伊賀ヲ經、伊勢國鈴鹿ノ神戸ニ御一宿、次ニ志郡山邊ノ行宮ヨリ、渡會ノ沼木ノ平尾(宮後町、月夜見宮ノ東ノ邊)ニ遷幸セラレ、三個月ヲ經テ同年九月望ノ日ニ、山

田原ノ今ノ大宮地ニ御鎮座アラセラレタリ。即、皇大神宮、御鎮座ニ後ル、コト、四百八十二年ナリ。

此ノ時、大佐々命ヲシテ、二所皇大神宮ノ大神主職ヲ兼子行ハシム
○豊受大神宮、御宮域、

豊受大神宮、域内ノ反別ハ、八十一町五反二畝八歩、大宮院ノ建物ハ、二十三ヶ所、域内ノ建物ハ二十ヶ所、又附屬ノ神苑ハ、三町五反九畝二十歩アリ。

○一鳥居橋ハ、豊川ニ架ス、外宮ノ表參道ナリ。

行幸啓、并ニ敕使參向等ノ節ハ、是處ヨリセララル

●清盛楠、ハ橋ヲ渡リテ、右側ニ在リ。今ヨリ、七百四十年前、清盛、敕使トシテ參向セン時、其ノ枝、冠ニ障リシヲ以テ、之ヲ伐ラシメタリ、故ニカク名付ケタリト云フ。

○一鳥居 外宮第一ノ鳥居ナリ。此ノ處ハ古ヨリ、兵仗等ヲ携ヘテ、入ル事ヲ禁セララル。

○行在所 一鳥居ヲ過キテ、參道ノ右ニアリ。

○參集所 ハ、行在所ノ北ニアリ。祭典ノ時、神官ノ齋宿スル所ナリ。

○祓 所 二鳥居ノ祓行事ニ奉仕スル神官ノ、祓ヲ修ムル所ナリ。

○二鳥居 此處ニテ、官幣、並ニ、敕使以下ノ一行ヲ淨ムル大麻、御壺ノ行事アリ。又、皇族ノ下馬、下乗モ、此ノ所ナリ。

○御神樂殿 參道ノ右ニアリ。衆人ノ志願ニヨリ御神樂ヲ奉奏シ、御饌ヲ供進スル所ナリ。

○大麻授與所 御神樂殿ノ西ニアリ。

○九丈殿 大麻授與所ノ西ニアリ。四至ノ神、並ニ攝社、末社等ニ、

御饌ヲ供スル所ナリ。

○五丈殿 九丈殿ノ北ニアリ。雨儀ノ祭典ニハ、二鳥居ノ行事、忌火屋殿前ノ行事等、皆此ノ殿ニテ行ハル。勅使以下、直會ニ預ル時ハ、此殿ヲ用ユ。

○玉串行事所 五丈殿ノ前ノ、廣キ石原ニテ、俗ニ大庭ト稱ス。維新前ハ、此ノ所ニテ、月次神嘗祭ニ、宮司、禰宜、玉串ヲ取リシ所ナリ。

○別宮遙拜所 參道ノ左ニアリ。外宮ノ別宮、多賀宮、土宮、月夜見宮、風宮ノ遙拜所ナリ。

○三ツ石 御池ノ前ニアリ。以前河原祓ヲ修メシ所ナリ。

○御池 參道ノ南ニアリ、中世マテノ御手洗ナリ。池ノ傍ニ、衆庶ノ盥嗽スル水盤アリ。

○蕃 屏 又蕃垣トモ云フ。板垣御門ノ前ニ、道ヲ隔テ、建テリ。東西南北トモ皆同シ。

○板垣鳥居 第三ノ鳥居ニテ、板垣御門、又ハ、荒垣御門ト云フ。周圍ニ、板垣ヲ繞ラシ、東西南北トモ、鳥居ヲ建テタリ。周圍百十六丈、高一丈アリ。是ヨリ内ヲ、大宮院、又ハ、内院ト云フ。

○外玉垣御門 内ヨリ第三ノ御門ナリ。俗ニ、十二所御門ト云フ。諸國ノ參宮人ハ、此所ニテ拜ス。此御門ヨリ内玉垣御門マテヲ、中重ト稱ス。

○中重^{ナカシ}鳥居 外玉垣御門ト、内玉垣御門トノ間ニアリ。俗ニ第四ノ鳥居ト云フ。

○石 壺 石疊トモ稱ス。中重鳥居ノ左右ニ在リ。東ハ、勅使、掌典補等ノ座ニシテ、西ハ、祭主、宮司正權禰宜ノ座ナリ。

○四丈殿 中重鳥居ノ東ニ在リ、奉幣ノ節、官幣ヲ點檢スル所ナリ。又、雨儀ニハ、石壺ノ座位、并ニ祭文讀進ナトモ、ユ、ニテ行ハル、

○内玉垣御門 二重目ノ御垣ニツキタル御門ナリ。祭典ノ節、勅使以下、此ノ御門下ニテ、玉串ヲ奉ラル、故ニ、玉串御門ト云フ。

○蕃垣御門 内玉垣御門ト、瑞垣御門トノ間ニ在リ、俗ニ、猿頭御門ト云フ。御門バカリニテ、御垣、御扉トモニナシ、

○瑞垣御門 一重目ノ瑞垣ニツキタル御門ナリ。又内院ノ御門ト云フ、周圍五十丈、高一丈アリ。

○正殿 豊受大神 (堅木、九本 千木、垂直ニ伐レリ)

御神號ニ就キテハ、種々ノ説アレト。御巫清直翁ノ説ニ據レハ、豊受大神ハ、倉稻魂神(稻靈ト尊崇スル稱號)ニシテ、御饌殿ニ就キテ御饌都

神ト奉祀スル時ハ、豊受大神ト稱シ、調御倉ニ就キテ祭ルトキハ、宇賀能美多麻神ト稱シ、御酒殿ニ就キテ祭ルトキハ、豊宇賀能賣命ト稱シ、粟國ノ御祖ト奉齋スル時ハ、大宜都比賣神、又ハ大御食都姫神ト稱シ、一神ヲ別ケテ稱號シ奉ルナリト。

相殿神 東 天津彦火瓊杵尊

西 天兒屋根命

天 太玉命

○東西寶殿 瑞垣御門ノ内、東寶殿ハ、正殿ニ向ヒ左ニアリテ御幣ノ錦綾、御調ノ糸等ヲ納メ、西寶殿ハ右ニ在リテ、御神馬ノ鞍、調度、并ニ古神寶等ヲ納メラル。長各一丈六尺、廣一丈二尺、高一丈

○御饌殿 玉垣、板垣ノ間ニアリ。其ノ製作、他ノ殿舎ト異ナリ、

棟柱二本ノミニテ、餘ノ柱ヲ用イス、四方、壁板ヲ以テ龕組トナシ南北二口ニ、御扉ヲ設ク、每朝夕、兩宮ノ御饌ヲ供進スル所ナリ。長一丈、廣一丈、高一丈、正殿ノ良位ニアリ

○外幣殿 正殿ノ異ノ角、玉垣、板垣ノ間ニアリ。東宮、並ニ皇后宮ノ幣帛、國々ノ調荷前、雜物等ヲ納ムル所ナリ。

○上御井 板垣北御門ノ前ヲ、西ニ行クコト、二町バカリ、藤岡山ノ麓ニ在リ。皇大神宮、並ニ、豊受大神宮ニ供スル、朝夕ノ御饌ノ御料ナリ。

●其他、大宮院ノ東北ニ、忌火屋殿、祓所、酒殿、内御廐、外御廐等アリ。
(忌火屋殿ハ木ニテ忌火ヲ饗リ御饌ヲ調理スル所ナリ)

○別宮 (堅木 五本、攝社末社ハ、三本) 千木 垂直

(一) 多賀宮 正殿ノ南、檜尾山ノ上ニアリ。大神ノ荒魂神ヲ祭ル。

(伊吹戸主神)

(二) 土宮 多賀宮ニ至ル道ノ右ニアリ。土御祖神、宇賀御魂神、大年命ノ三座ヲ祭ル。(大年ノ命ニ大田ノ命トモ)

(三) 風宮 多賀宮ニ至ル道ノ左ニアリ。級長津彦命、級長戸邊命ノ二座ヲ祭ル。

(四) 月夜見宮 外宮ノ外、宮後町ニアリ。月夜見命、荒魂命ヲ祭ル。(神號ハ度會延經) (神名略記ニヨル)

○始テ度會郡ヲ置ク

孝德天皇ノ大化二年(一三)正月、縣郡ノ制ヲ定メラレ、此ノ神國(後ノ飯野多氣)度會ヲ二分シテ、度會多氣ノ二郡ヲ置キ、各十郷ヲ管轄セシメ、山田ノ原ニ屯倉ヲ立テ、度會郡ヲ管シ、竹村ニモ屯倉ヲ立テ、多氣郡ヲ管シ、督領(大領)、助督(小領)ヲ置キ之ヲ支配セシム。然レトモ、神領ハ、舊

ノ如ク、郡縣制度ノ外ニ立テ、公郡ニ編入セラレヌ。國造ノ神序ハ、舊ノ如ク、鳥墓ニアリテ、大若子命ノ子孫之ニ任セラレシガ、同五年（二三〇九）神序ヲ、山田原〔宮後町月夜見宮ノ東ノ邊〕ニ移シテ、御厨ト改メ、又、神國造ノ職ヲ廢シテ、大神宮司ノ職ヲ置キ、中臣香積〔カヅミカサシ〕連須氣ヲ以テ之ニ任シ、二郡、及ヒ諸國神戶ノ政務ヲ行ハシメ以後、百五十年間、同所ニ於テ、諸政ヲ執リシガ、水害ニカ、リシヲ以テ、延曆十六年（一四五七）八月三日、詔アリテ、大神宮司ノ御厨ヲ湯田〔ユタ〕郷、宇羽西村〔宇羽西村ハ今ノ上地小俣ノ邊〕ニ移サル。

○神三郡、及ヒ神八郡

天智天皇ノ三年（一三三四）多氣郡十郷ノ内、四郷ヲ割キテ、飯野郡ヲ置キ、伊勢國司ニ屬セシメ、又延曆二十年（一四六一）七月朔日、諸國ノ神稅ハ、國司檢校スヘキ由、詔アリテ、大御神ノ神稅モ、國司ノ檢校ス

ル事トナリシカ、大神宮ハ、諸社ト異ナルヲ以テ、同廿四年ニ至リ舊ノ如クハ、大神宮司ニ復セラレタリ。

其ノ後、仁和五年（一五四九）三月十三日、又詔アリテ、宇多天皇御一代ノ間、飯野郡ヲ、神國ニ復セラレ、尋テ、寛平九年（一五五七）九月十一日ニ至リ、永ク、神領タルヘキ旨、詔アリ。是ヨリ、度會、多氣、飯野ヲ、神三郡、又、道後〔ダツテ〕トモ稱セリ。〔員辨三重朝明ヲ道前三郡ト云フ〕此ノ時、神三郡ノ領地ハ、左ノ如シ。

度會郡	多氣郡	飯野郡	計
封戸 四四七	三一五	二一〇	九七二
御厨 一三	五	二	二〇
御園 七四	四六	三八	一五八

其ノ後、左ノ五郡ヲ、神領トセラレ合セテ神八郡ト云フ。

朱雀 天皇、天慶三年(一六〇〇)八月廿七日、員部郡
 村上 天皇、應和二年(一六三三)二月廿三日、三重郡
 圓融 天皇、天祿四年(一六三三)九月十一日、安濃郡
 後一條天皇、寛仁三年(一六七九)九月十一日、朝明郡
 後鳥羽天皇、文治元年(一八四五)九月九日、飯高郡
 其ノ他、諸國ニ、神戸〔七ヶ國 四百十三戸〕封戸〔七ヶ國 三百五十戸〕神田〔九十五町四反四畝〕
 御園御厨等ノ神領、數多アリ〔神宮雜例集〕

○兩宮御遷宮ノユト

天武天皇以前ハ、兩宮ノ殿舎、御門、御垣等、破損ノ時ヲ俟テ、宮司
 ニ於テ、修補シ奉ル例ナリシガ、天皇ノ、白鳳十四年乙酉(二三四五)九
 月十日、敕シテ、御遷宮ハ、二十年ニ一度ト定メラレ、持統天皇ノ四
 年(二三五〇)九月十六日ニ、内宮正遷宮ヲ行ハレ、同六年九月十五日ニ

外宮正遷宮ヲ行ハレ、兩宮、各、コノ日ヲ以テ、式月式日ト定メラル、
 而シテ、兩宮、同年ニ之ヲ行ハズ、内宮遷宮ノ後、一年ヲ隔テ、外
 宮ノ遷宮ヲ行ハル、例トナレリ。

其ノ後、康永二年(三〇〇三)十二月廿八日ニ、内宮正遷宮ヲ行ハレ、貞
 和元年(三〇〇五)十月廿七日ニ、外宮正遷宮ヲ行ハレテヨリ、二十一年
 ナ式年ノ如クニセラシメタレ、或ハ、廿八年目ニ行ハレ、或ハ、二十
 五年目等ニ、行ハレシコトアリ。

其ノ後、天下兵亂ノ爲、兩宮トモ、假殿遷宮ノミニテ、正遷宮ノ中絶
 セルヲ、外宮ハ、永享六年(三〇九四)ヨリ、永祿六年マテ、百三十年間
 ニ及ヒ、内宮ハ、寛正三年(三二二二)ヨリ、天正十三年迄、百二十四年
 間、中絶セリ。

天正十三年(三二四五)ヨリ、兩宮ノ正遷宮ヲ、同年ニ行ハレ、寛永六年

三三八九ヨリ、廿一年ニ、一度トナリ、式月ニ之ヲ行ヒ、日ハ、吉日ヲ選ヒテ宣下セラレ、以後變更アルコトナシ。

遷宮ノ刻限ハ、外宮ハ、酉ノ刻(午後六時)内宮ハ、戌ノ刻(午後八時)ト定メラレ又、遷宮ノ年ハ、天下、斧ノ音ヲ停止スヘシト、延喜大神宮式ニ見エタリ。

持統天皇ノ時ヨリ、今ニ至ル迄、千二百年間ニ行ハレタル、正遷宮及ヒ、假殿遷宮ハ、左ノ如シ

- 正遷宮 假殿遷宮 臨時遷宮
- 内宮 五六 五七 四
- 外宮 五五 五九 ○

明治二十二年ニ行ハレシ、正遷宮ハ、古今未曾有ノ盛典ニシテ、國庫ヨリ、三十萬圓ヲ出シテ、其費ニ供セラレ、特ニ、造神宮使廳ヲ設ケ

ラレテ、其ノ事ヲ管理セシメラレタリ。

○御杣山、及ヒ御造營ノニト

上世ハ、心御柱ノ料ヲ、外宮ノ御山ニテ採リシカ、料材盡クルヲ以テ、野後ノ南山、阿曾ノ御杣山ニ於テ採リ、其ノ後、大杉山ニテ採リタリ。而ルニ、寶永(二三七〇)ノ頃ヨリハ、大杉山ト、木曾山ト、隔番ニ採リシカ、大杉山ハ、宮川ノ水ノ少キ時ハ、運搬ニ不便ナルヲ以テ、寛政(三四五〇)ノ頃ヨリ、木曾山ノミトナレリ。

造營ヲ掌ル職ヲ作所ト云ヒ、以前ハ、内宮ハ藤波家、外宮ハ松木家ニテ之ヲ行ヒ、屬役ニ、頭工、頭代、小工、古老アリ。御造營ノ間テ、御庭作ト云ヒ、三ヶ年ノ間、小工、始終、袴ヲ着シ、明衣(白)ヲ懸ケ、尤、嚴重ナル勤ナリ、小工ノ服裝ハ、今モ變スルコトナシ。

○金剛證寺

勝峯山兜率院金剛證寺ハ、朝熊岳ノ絶頂ニアリテ、宇治、又ハ楠部ヨリ昇レハ七十二町、一字田ヨリハ四十四町、朝熊村ヨリハ三十二町ノ所ニ在リ。此ノ山ハ、奈良朝ノ頃、曉臺ノ開ケル處ニシテ、淳和天皇ノ天長元年（一四八四）弘法大師、之ヲ中興シ、本尊虚空藏ヲ安置シ、眞言宗ニ定ム、其ノ后、延長年中（一五八五）鎌倉建長寺第五世、東岳和尙（尾州知多郡野間ノ産）又之ヲ中興シ、臨濟宗ニ改メ以テ今ニ至ル。而シテ、享和三年（二四六三）二月、火災ニ罹リ、客殿、方丈、庫裏、回廊、仁王門等ヲ失ヒ、近年、又火災ニ罹リ、回廊、庫裏等ヲ失ヒシモ、本堂、及ヒ其ノ他ノ建物ハ依然タリ（寺記五鈴遺響）吞海庵ノ前ニハ、富士見臺アリテ、富士ヲ遠望スヘク、望海院ヨリハ、大平洋ヲ望ミ、遠近ノ眺望、誠ニ絶佳ナリ。

●有名ノ萬金丹藥舗ハ、此ノ山ニアリ、元祖ハ、宗祐又宜宣ト云ヒ、

知多郡野間ノ産ニシテ、東岳禪師ノ從者トナリテ來リシ者ナリト云フ

○世義寺

教王山神宮寺寶金剛院ハ、俗ニ世義寺ト云フ。モト前山龜五輪ノ地ニアリ、眞言宗ノ古刹ナリ。寺傳ニ、天平年間（一三九〇）聖武天皇ノ御創立ニテ、開基ハ、行基ナリト云フ。中興ノ開山ハ、圓海律師ナリ。建長七年（一九一五）ノ頃外宮ノ西、坂ノ世古ニ在ルヲ見レハ、ソノ以前ニ、前山ヨリ移轉セシナリ。而ルニ此ノ地ハ、宮域ニ接近セルヲ以テ、寛文十一年（二三三三）五月十日、桑山奉行ノ命ニヨリ、今ノ瀧浪山ニ移轉セリ。昔ハ支院十九院アリシカ、今ハ、唯、威徳院ノミ殘レリ。

○光明寺

金鼓山光明寺ハ、天平十四年（一四〇二）聖武天皇ノ勅ニヨリテ、前山ニ創建セラレ、其ノ后、吹上町ニ移轉ス、建武年中、月波和尙、之ヲ中

勝峯山兜率院金剛護寺ハ、朝熊岳ノ絶頂ニアリテ、宇治、又ハ楠部ヨリ昇レハ七十二町、一宇田ヨリハ四十四町、朝熊村ヨリハ三十二町ノ所ニ在リ。此ノ山ハ、奈良朝ノ頃、曉臺ノ開ケル處ニシテ、淳和天皇ノ天長元年（一四八四）弘法大師、之ヲ中興シ、本尊虚空藏ヲ安置シ、眞言宗ニ定ム、其ノ后、延長年中（一五八五）鎌倉建長寺第五世、東岳和尙（尾州知多郡野間ノ産）又之ヲ中興シ、臨濟宗ニ改メ以テ今ニ至ル。而シテ、享和三
年（二四六三）二月、火災ニ罹リ、客殿、方丈、庫裏、回廊、仁王門等ヲ失ヒ、近年、又火災ニ罹リ、回廊、庫裏等ヲ失ヒシモ、本堂、及ヒ其ノ他ノ建物ハ依然タリ（寺記五鈴遺書）
吞海庵ノ前ニハ、富士見臺アリテ、富士ヲ遠望スヘク、望海院ヨリハ、大平洋ヲ望ミ、遠近ノ眺望、誠ニ絶佳ナリ。
●有名ノ萬金丹藥舗ハ、此ノ山ニアリ、元祖ハ、宗祐又宜宣ト云ヒ、

知多郡野間ノ産ニシテ、東岳禪師ノ從者トナリテ來リシ者ナリト云フ

○世義寺

教王山神宮寺寶金剛院ハ、俗ニ世義寺ト云フ。モト前山龜五輪ノ地ニアリ、眞言宗ノ古刹ナリ。寺傳ニ、天平年間（二三九〇）聖武天皇ノ御創立ニテ、開基ハ、行基ナリト云フ。中興ノ開山ハ、圓海律師ナリ。建長七年（二九一五）ノ頃外宮ノ西、坂ノ世古ニ在ルヲ見レハ、ソノ以前ニ、前山ヨリ移轉セシナリ。而ルニ此ノ地ハ、宮域ニ接近セルヲ以テ、寛文十一年（二三三三）五月十日、桑山奉行ノ命ニヨリ、今ノ瀧浪山ニ移轉セリ。昔ハ支院十九院アリシカ、今ハ、唯、威徳院ノミ殘レリ。

○光明寺

金鼓山光明寺ハ、天平十四年（一四〇二）聖武天皇ノ勅ニヨリテ、前山ニ創建セラレ、其ノ后、吹上町ニ移轉ス、建武年中、月波和尙、之ヲ中

興シ、禪宗ニ改ム、延元三年（一九九八）九月、月波和尚（惠觀）ノ父、結城宗廣（入道）（道忠）阿濃津ニ漂着セルヲ以テ、本寺ニ迎へ、同年十一月廿一日病死セリ（墓ハ今吹上町世木社ノ東ノ方ニアリ）當寺ノ鐘ハ、後深草天皇ノ時、常磐井入道實氏ノ寄附ニカ、ル、神境ハ、モト鐘ヲ撞クヲ禁セルヲ以テ、天正年中（二二四〇）外宮ノ神官等、本寺ノ鐘ヲ撞クヲ禁セント請フ、寺僧、豊臣秀吉ニ愁訴シ、本寺ニ限リ之ヲ許サル。寛文十年（二三三〇）十一月廿四日、山田大火ノ節、焼失シ、今ノ岩淵町前田ニ移轉セリ。

○別宮ノ宮號宣下

（一）内宮月讀宮ハ、モト月讀社ト稱セシカ、貞觀九年（一五二七）宮號ヲ宣下セラル。

（二）内宮ノ別宮、伊佐奈岐、伊佐奈彌ノ兩宮ハ、モト社號ナリシカ、

貞觀九年八月二日、宮號ヲ宣下セラル。

（三）外宮土宮ハ、モト、土御祖社ト稱セシガ、宮川堤ノ守護ノタメ、大治三年（一七八八）六月五日、宮號ヲ宣下セラル。

（四）外宮月夜見宮ハ、モト、社號ナリシガ、承元四年（一八七〇）五月二十一日、宮號ヲ宣下セラル。

（五）内宮ノ風日祈宮、及ヒ、外宮風宮ハ、モト、風社ト稱セシガ、後宇多天皇ノ弘安四年（一九四二）蒙古ノ兵、我カ國ニ冠セシヲ以テ、五月、龜山上皇、戰勝ヲ祈ラレ、閏七月一日、神威ヲ顯シ給ヒシニヨリ、正應六年（一九五三）三月二十日、共ニ宮號ヲ宣下セラル。

○西行法師ノ遺跡

西行法師ハ、モト佐藤義清（大日本史ニヨル）ト云ヘリ、崇徳天皇ノ保延三年（一七九七）出家シテ、圓位ト呼ビ、暫ク京師ニ住ミシカ、後、大神宮ニ參

拜シ、遂ニ、庵ヲ二見ノ安養山ニ建テ、次テ、又宇治ニ庵ヲ結ヒ、ニ留ルコト、三年ニシテ、東ノ方ヘ赴ケリ。今ノ西行谷ハ、ソノ遺跡ナリ

何事のおはしまさかば知らねども

かたしけなさあかみたこほる、 (西行)

○清盛堤、及ヒ清盛楠

宮川ハ、古ヨリ屢々洪水アリシカ、應保、長寛(一八二〇)ノ頃、平清盛、敕使トシテ參向シ、宮川ノ堤ヲ堅固ニ改築セシメタリ。今尙、常磐町大間廣、並ニ、二俣喜多氏ノ庭ニ、清盛堤ノ遺跡アリ。又、外宮、一鳥居橋ヲ渡リテ、右側ニ、清盛楠ト云フモノアリ。同シ頃、勅使トシテ、參拜セシ時、其ノ枝、冠ニ障リシヲ以テ、之ヲ伐ラシメシヨリ、カク名ツケタリト云フ。

○熊野ノ僧徒、亂入ス

安徳天皇ノ時、關東源氏ノ兵、南海ヲ廻リ、京都ニ來ル由、風聞アリシカハ、平家ニ於テハ、伊豆江四郎ヲシテ、志摩國ヲ警固セシム。養和元年(一八四二)正月五日、熊野ノ僧徒等、志摩國波切島ニ集リ、江四郎ヲ攻ム、江四郎敗レテ、神路山ヲ踰エ、宇治岡ニ隠ル。僧徒等、志摩ノ民家ヲ掠奪シ、同廿一日、二見浦ノ人家ヲ燒キ、黒瀬、河邊(今ノ河崎)ノ邊ニ至ル、時ニ、平氏ノ一族、關出羽守信兼軍勢ヲ出シテ、船江邊ニ防キ戰フ、衆徒敗レテ、二見浦ニ退キ、婦女少童二十餘人ヲ捕ヘ、熊野浦ニ逃レタリ。(東鑑)

○清盛、神郡ニ兵糧米ヲ課ス

安徳天皇養和元年正月廿一日、清盛、驕奢ノ餘、神威ヲ輕ンシ、使者ヲ、神三郡ニ遣シテ、兵糧米ヲ課セリ。コレ、大神宮御鎮座以來千百

餘年、未タ此ノ如キ例アラサルナリ。(東鑑)

ユレヨリ諸國ノ武士、其ノ近傍ノ神領ヲ横奪シ、大神宮司ノ威令行ハ
レズ、當所ノ政治モ、自然武士ノ專行スル様ニナリタリ。

○守護使不入ノ事

鎌倉幕府以前ハ、朝廷ヨリ、諸國ニ國司ヲ置カル、ノミナリシカ、文
治元年(一八四五)頼朝奏シ請ヒテ、國司ノ外ニ、國毎ニ守護ヲ置キ、莊
園ニ地頭ヲ置ケリ。而シテ、權門、勢家、神社、佛寺等ノ領ハ、守護
使不入ト稱シ、伊勢神境モ、守護不入ノ地タリシ故、夜討、強盜、放
火、殺害、山賊、海賊等アルキハ、守護ヨリ召シ捕ルコトナク、祭主家
ヨリ、犯人ヲ、道後政所ニ渡シ、政所ニ於テ、罪狀ヲ糺問シ、白狀書
ヲ、祭主家へ出シ、罪狀彌々相違ナキニ於テハ、道後政所ヨリ守護へ
出シ、罪科ニ行ヒタリ。

●守護不入ヲ諸役御免ノ事ト思フハ非ナリ。守護不入ト、諸役御免ト
ハ、別々ノ義ナリト、弘訓翁ノ守護不入考ニ辨セリ。

○頼朝、神領ヲ押領スルコトヲ禁ス

文治二年三月十日、頼朝、書ヲ伊勢國神宮御領、御園、御厨ノ地頭等
ニ下シテ、神領ノ狼藉ヲ停止シ、神役ヲ缺クヘカラサルコトヲ命ス、然
ルニ、宇佐美平次實正、宇治藏人三郎ノ代官、及ヒ畠山次郎重忠ノ代
官等、神領ヲ押領セルニヨリ、或ハ地頭職ヲ停メラレ、或ハ地領ヲ没
収セラレタリ。(東鑑)

○齋内親王斷絶ス

崇神天皇ノ時、皇女豊鋤入姫命ヲ齋内親王トシ、皇大御宮ニ奉侍セシ
メラレ、次テ垂仁天皇ノ廿六年、皇大神宮ヲ、五十鈴ノ川上ニ奉遷セ
ラレ、倭姫命ヲ、齋内親王トセラレテヨリ、代々ノ天皇、皇女或ハ、

王女ヲ、齋内親王トセラレシカ、後醍醐天皇ノ元弘元年（一九九一）祥子内親王、御退座後ハ、亂世ノ爲ニ、之ヲ置カレス、七十一代ニテ、遂ニ斷絶スルニ至レリ。（一ニ七十）
（五代トモ）

●齋内親王ノ離宮院ノ跡ハ、今、宮後町月夜宮ノ邊、及ヒ、小俣村、

宮川停車場ノ邊、〔湯田郷宇羽〕ニアリ
〔西村トアリ〕ニアリ

●齋内親王ノ座マセシ宮ハ、竹ノ都、又ハ竹ノ宮トモ稱シ、今ノ多氣郡齋宮ノ地ナリ

○北畠氏、伊勢ノ國司トナル

後醍醐天皇延元三年（一九九八）閏七月、從四位上北畠顯能〔親房〕ヲ以テ、伊勢ノ國司トナシ、子孫世々、之ニ任セラレシガ、永祿十二年（二三三二）九月、織田信長、北畠氏ヲ大河内城ニ攻ム、城固クシテ落チザリケレハ、終ニ和ヲ講シ、二男信雄ヲ、信意ノ養子トナシ、田丸城ニ居ラ

シメタリ。〔北畠氏ノ居城ハ世々一志郡、上多氣ニアリ〕
〔シカ信意ニ至リ飯高郡大河内城ニ移セリ〕
〔北畠入道具教ハ、城ヲ多

氣郡三瀬ニ築キテ移リ住ミシガ、數代連續セル家ヲ、他家ニ取ラレ、之ヲ悔シク思ヒ、織田氏ヲ怨ミシニ、信長之ヲ覺リ、信雄ト謀リテ、天正四年（二三三六）十一月廿五日、長野左京進等ヲシテ、具教ヲ弑セシメ、信意ハ、ソノ死ヲ宥メテ之ヲ幽シ、北畠氏ハ、九代ニテ、一族盡ク織田氏ニ滅ボサレタリ。

○田丸城

田丸城ハ、後醍醐天皇ノ頃、南朝方ニテ築キシモノナルベク、其ノ後、北畠氏ニ屬シ、愛州政勝ノ時、權勢頗盛ニシテ、玉丸御所ト稱セリ、其ノ子、田丸親忠〔又顯晴〕家臣ノ爲ニ討タレテ自殺シ、國司晴具、亂臣ヲ逐ヒテ、親忠ノ男、具直ヲ本城ニ歸住セシム。天正三年、信長北畠氏ト和睦シ、具直ヲ、岩出城ニ移シ、次テ一ノ瀬谷ニ移シ、〔一ノ瀬御所ト稱ス〕

信雄ヲ田丸城ニ居ラシム。天正八年、火災ニ罹リシヲ以テ、信雄ハ、同九年八月、一志郡松ヶ島城ニ移リ、當所ノ政事モ、同所ニテ行ヒタリ。

同十二年、織田家滅亡ノ後、豊臣秀吉、田丸中務少輔具直(又忠顯)ヲ、一ノ瀬ヨリ召シテ、田丸城ニ居ラシメ、次テ奥州三春城ニ移サル。慶長五年(二二六〇)ヨリ岩出城主、稻葉通直、移リテ之ヲ成リシカ、元和元年(二二七五)藤堂高虎、大坂ノ戦功ニヨリ、田丸五万石ヲ併セ領シ、同五年八月、徳川頼宣、和歌山へ入城ノ時、藤堂氏ト領地ヲ交換シテ、紀州候ニ屬シ、其ノ臣、久野宗成ヲ城宰トシ、世々相續キテ、之ニ居リシカ、維新ノ後ハ、陸軍省ノ所轄トナレリ。

○義良親王、戦勝ヲ祈ラル

延元三年閏七月、結城宗廣、吉野ノ行宮ニ詣リ、一親王ヲ奉シテ、陸

奥ヲ鎮定セント請フ。後醍醐天皇、ソノ請ヲ許シ、源顯信ヲ輔弼トシ、結城宗廣ヲ衛尉トシテ、義良親王(時ニ御歳七歳 後村上天皇)ヲ奉シ奥州ニ赴カシム。親王、諸將ヲ從へ、伊勢ニ來リ、九月十日、大廟ニ謁シテ、戦勝ヲ祈ラレ、海路、任所ニ赴カント欲シ、大湊ニテ、兵船五十餘艘ヲ調へ、同十二日ノ宵、風ヤミ浪靜ナルヲ待テ、纜ヲ解キテ、遠江ノ天龍灘ニ至ラレシニ、海風俄ニ吹荒レ、諸船皆漂流シ、親王ハ、顯信ト共ニ、篠島ニ漂着シ、宗廣ハ、阿濃津ニ着ケリ。親王ハ、暫ク、ソノ地ニ停ラレシカ、宗廣、病ニ罹リ卒セシヲ以テ、翌四年三月、終ニ吉野ニ還啓アラセラレタリ(大平記)

○神郡始テ武家ノ侵畧ヲ受ク

後村上天皇、延文(二〇二〇)ノ頃、仁木左京大夫義長、伊勢國ノ守護職トナリシニ、前々更ニ、公家武家モ、手ヲ指サザル神三郡ニ打テ入り

テ、大神宮ノ御領ヲ押領ス、是ニ依リテ、祭主、神官等、京都ニ上リテ、公家ニ奏聞シ、武家ニ訴フ、依リテ、嚴密ノ繪旨、御教書ヲ下サレシモ、義長、曾テ承引セズ、剩ヘ、我ヲ訴訟シツルカ悪キトテ、五十鈴川ヲ堰キテ魚ヲ捕リ、神路山ニ入リテ鷹ヲ使フ等ノ亂暴ヲ行ヘリ。
(太平記)

其ノ後、世保氏代々伊勢ノ守護トナリシカ、後花園天皇、永享十二年(三二〇〇)七月、國司北畠顯雅、足利將軍義教ト和睦スルニ及ヒ、伊勢ノ守護職、世保持頼ヲ停メ、國中ナ、北畠氏ニ屬セシム。是ノ時、神領ハ、既ニ武家ニ押領セラレ、國司ハ、其ノ儘ニ、領分ヲ定メタルヲ以テ、神領ハ、僅ニ、度會郡山田三方、宇治六郷、多氣郡齋宮寮、飯野郡相可莊ノミトナレリ。

○山田ノ政事 附三方會合所

永享十一年頃迄ハ、道後ノ政所ヲ置キ、神領ノ政事ヲ執シカ、同十二年、北畠氏ニ屬セシ頃ヨリ、山田ヲ三ツニ分チ、岩淵方、坂方、須原方トシ、之ヲ山田三方ト稱ヘ、一方ニ、八人ツ、ノ役人ヲ置キ、一ノ木町實性寺ノ本堂ヲ以テ、會集所トシ、是所ニテ政事ヲ執レリ、其ノ後、寛文十年ノ火災ニヨリ、實性寺ヲ越坂ニ移シ、其ノ屋敷跡ニ會合所ヲ新築シテ、政事ヲ執リシカ、維新ノ際、之ヲ廢シ、其ノ跡ニ、一ノ木學校ヲ建テ、今ハ、戎座トナセリ。
(宇治ニモ年寄會合所アリ)

○宇治ト山田トノ確執

後花園天皇、寶徳元年(三二〇九)閏十月廿五日、武田殿參宮アリシ時内宮ノ宮籠、一ノ鳥居ニ於テ、外宮ヨリノ指南ノ通行ヲ留ム、而ルニ外宮ヨリノ指南兩人、法ヲ破リ入ラントシ騒動ニ及フ、子良館ノ宮守、物忌、父弘憲、走リ出テ、之ヲ靜メシニ、弘憲又傷セラレ、外宮ノ指南兩

人モ、亦殺害セラレタリ、之ニヨリ、山田ヨリ、通路ヲ止メ、弓矢ニ及フ。十一月十五日、幕府ヨリ、兩宮ノ間ノ通路ヲ開クヲ命シ、同二年二月一日、相方ヲ和睦セシムル爲、上使、山田ニ着シ、二月七日遂ニ、外宮一ノ鳥居ニ於テ、宇治ト山田ト和睦セリ(内宮一禰宜氏經日次)

○北畠氏、宇治ヲ助ケテ山田ヲ攻ム

後土御門天皇、文明十八年(三二四六)山田ヨリ、岡本ニ番屋ヲ置キ、諸國ノ道者ヲ、内宮ノ宿へ通サズル様ニシ、唯參宮ノ上下ノミヲ通スル故、内宮方ヨリ、種々山田へ子細ヲ申スト雖、承引セズ、彌々堅ク道者ヲ止ムルニヨリ、國司北畠材親ニ訴へタリ。北畠家ニ於テハ、内宮方ヨリ申ス所、尤ナリトシ、山田へ諭スト雖、承引セス、剩へ村山掃部介武則、主領トナリ、同年十月廿四日ヨリ、一向内宮ノ通路ヲ止ム。是ニ於テ、宇治衆、兵糧以下、萬迷惑ニ及フ由、北畠氏ニ訴へシニ、

北畠氏大ニ怒リ、十二月十九日、兵ヲ出シテ山田ヲ攻ム、武則ハ、陣ヲ城山(常磐町ノ南橋村
氏ノ構内ニアリ)ニ設ケ之ヲ拒キシカ山田三方、悉ク燒カレ、村山ノ黨八人、宮中ニ走入リ、御殿ノ下ニ隠ル、宇治衆、此ノ由ヲ聞キ、甲五百斗ニテ攻メ寄セタレド、神殿ヲ穢シ奉ランコトヲ恐レ、誘キ出シテ討テ取ラントセシニ、廿二日ノ早天ニ、村山ノ黨八人ハ、宮中ヨリ切テ出ツ、宇治方、馳セ向ヒテ之ト戦ヒ、掃部介ハ、痛手ヲ負ヒ、又御殿ノ下ニ引キ返ス、殘ル七人ハ、討死シ、掃部介ハ、火ヲ御殿ニ掛ケ奉リ、腹ヲ切り、廿六日ニ諸勢悉ク退キ、事止ミタリ(内宮子良館舊記)

○山田ヨリ宇治ヲ攻ム

文明十八年ノ戦争後、北畠氏ヨリ宇治衆へ扶持アルニ因リテ、宇治衆、萬無禮ノ振舞多ク、皆之ヲ惡マサルモノナシ。故ニ山田衆、好キ折ソト、近邊ニ示シ合セ、大勢ニテ發向ス、先ツ山田三方ヲ始トシ、濱七

郷ノ内三郷、神部七郷、五智、白木、上野、一字田、原、外木田等ノ勢、幾千人ト云フヲ知ラズ、朝熊鹿海兩郷ハ、六郷ノ内ニテ、宇治ニ從フヘキニ、上四郷ニ不足アルニヨリ、山田ニ附ク。是ニ於テ、長享二年(三一四八)六月二十三日、早天ヨリ、宇治ニ押シ寄せ、山田衆ハ、浦田口ヨリ、上村口鼓岳迄引キ廻シテ之ヲ圍ミ、鹿海、濱三郷、五智衆ハ、尾崎楠部ヘ馳セ向ヒ、神部七郷ノ衆ハ、菩提山、島路、大河内ヘ馳セ向ヒ、上野、一字田衆ハ、作道ヘ向フ。内ニハ、纔ニ上四郷ノ衆五百人計ニテ、十人二十人ツ、口々ヲ固メテ防ク、先ツ一番ニ、河原祓所、風宮橋ヘ押シ寄せシニ、上館衆防キ戦ヒ之ヲ退ク、次テ、御山峠、菩提山ヨリ攻メ入りシモ、宇治方、能ク防キ皆退却ス、浦田口ヨリハ、山田三方衆入り替リ、攻メ戦ヘトモ、守リ堅クシテ、破ル、氣色ナク、如何ハセント、アグミシ所ニ、牛谷陽田建國寺山ナト

ノ手明ノ所ヨリ、走り入りテ、所々ニ火ヲ掛シカハ、宇治衆、大ニ驚キ、守リヲ捨テ、走ル、山田衆、勝ニ乘シテ亡クルヲ追ヒ、宇治衆、大半菩提山ニ逃レタリ。既ニシテ火、宮城近クニ起リ、御厩子良館マテ延焼ス、落合口、御山峠ノ手負數十人、其外、老弱男女等、盡ク瑞籬ヲ破リ、院内ニ逃ケ入ルヲ以テ、神官等、之ヲ禁制スト雖、力及ハス、大ニ狼藉ヲ極メシカ、翌日、事遂ニ治レリ。(内外宮兵亂記)

●久世戸ノ北ニ當リ、大五輪トテ、方四尺、高一丈二尺ノ五輪ノ塔アリ、此ノ塔ニ就キテハ、種々ノ説アレド、宮後町邊ノモノ、毎年七月ニ、燈籠ヲ點シ、參拜セシ由ナレハ、此ノ頃ノ戦死者ヲ合祠セシモノナルヘシ。

●大五輪ヨリ、東ニ當リ、貝吹山アリ。ユレ此ノ戦争ニ、軍卒ヲ集ムル爲、貝ヲ吹キシヨリ、カク名付ケタリト云フ。

○清順尼、宇治橋及ヒ、外宮ヲ造營ス

慶光院主、清順尼、天文年中(二三〇〇)諸國ニ勸進シテ、宇治橋ノ絶エ
タリシヲ架設ス、又其ノ比ハ、亂世ノ爲、兩宮ノ正遷宮、斷絶セルヲ
以テ、私力ニテ、永祿六年(二三三三)九月廿三日、外宮ノ正遷宮ヲ行ヒ
タリ、然レトモ、僧尼ノ身ニテ、之ヲ爲シコト、神慮モ恐レアリ、神
宮モ末代ノ瑕ナリトテ、清順尼ノ御師、足代弘興ノ催ス處トシテ、之
ヲ爲セリ。即外宮ノ正遷宮ハ、永享六年ニ行ヒシヨリ、是歲マテ、百
三十年間、廢絶セリ

因ニ曰、清順ハ、守悅ノ弟子ニシテ、第三世ナリ。大橋ヲ架シ、内
宮假殿遷宮ヲ行ヒシ功ニヨリ、敕シテ、慶光院ノ號ヲ賜フ

○鹽合川ノ合戰

正親町天皇、永祿十二年(二三三九)北畠左中將具正伊勢木造城主志摩國、二郡ノ

諸士ト合シテ、欺ヲ信長ニ通シ、國司、北畠具教ニ背キシカハ、國司、
野呂越前守源實ヲ、大將トシテ、之ヲ討タシム、同年六月十八日、兩
軍、鹽合川二見邊ニテ相戰フ。是ヨリ先、北畠氏ハ、屢々神領ヲ畧奪
シ、且處々ニ、關門ヲ設ケテ、參宮人ヲ止ムル等、頗專横ノ舉動アリ
シカハ、山田ノ神官、之ヲ憤リ、志摩勢ニ加勢シ、不意ニ起リテ、後
ヨリ之ヲ攻メ、源實及ヒ、其ノ他ノ者モ討死シ、國司勢ハ、大ニ敗亡
セリ。(諸家勳功記)

○信雄、御供料ヲ寄附ス

天正十一年十月、國司北畠信雄ヨリ、兩宮御供料トシテ、多氣郡ノ中、
齋宮、上野、有爾、中村ノ四ヶ村、高二千五百貫文ノ地ヲ寄附セリ、
○多氣度會、蒲生氏ノ領トナル

天正十二年、國司廢絶ノ後、秀吉、多氣度會ノ地ヲ、蒲生氏郷ニ與ヘ

シカ、宮川以東、并ニ齋宮村以下ハ、前々ノ如シ。
氏郷ハ、天正十八年、封ヲ會津ニ移サル。

○周養尼、兩宮ヲ造營ス

慶光院四世、周養尼、内宮正遷宮ノ廢絶セルヲ歎キ、清順尼ノ例ニ倣ヒ、元龜二年(二三三三)二月ヨリ、諸國ヲ勸進シテ、天正三年三月十六日、内宮假殿遷宮ヲ行ヒ、同十一年六月ヨリ、復諸國ヲ勸進シテ、同十三年十月十三日、内宮ノ正遷宮ヲ行ヒ、同十五日、外宮ノ正遷宮ヲ行ヒタリ。内宮ノ正遷宮ハ、寛正三年ヨリ、當年迄、百二十四年間、廢絶セリ。(郷談)

○朝熊攻

天正十三年十一月廿八日、北畠國司ノ殘黨、木造等、朝熊山ニ據リ、一揆ヲ起ス由、風聞アリケレハ、蒲生氏郷兵ヲ率井テ、松ガ島ヲ發シ、其ノ日、外宮ニ參拜シ、其ノ夜ハ、山田ニ一宿シ、翌日朝熊山ノ麓迄、押寄セ、林ノ内ニ陣ヲ取り、夜アケナハ、寺ヲ燒討ニセント相圖ヲ定メシニ、僧徒ユノ由ヲ聞キ、詫ヒテ曰ク、諸浪人ハ追ヒ出スヘシ、寺ハ、大神宮ノ侍寺ナレハ、恙ナキ様ニト、氏郷即チ、之ヲ許シ、無事ニ治マレリ。

○浦田坂ヲ開ク

浦田坂ハ、古市ヨリ、宇治ニ降ル坂ニシテ、俗ニ、牛谷トイフ。古ハ、尾上ノ峯ヨリ、一續キノ山ニシテ、路狹ク、石出テ、水流レ、駄馬モ、行キ違フニ、困難ナリシカ、天正年中、秀吉ノ命ニ依リ、田丸城主、稻葉藏人大夫、通直、之ヲ切り開キテ、平坦ニシ、路ノ左右ニ、松櫻等ヲ栽エタリ。

其ノ後、延寶二年(二三三四)八月、内宮ニ禰宜、荒木田神主氏富、自ラ

數百金ヲ出シテ、數多ノ人夫ヲ使ヒ、左右ノ、兩壁ヲ切り開カセ居ケルニ、一丈程ノ土塊、人夫ノ上ニ落テ來リ、七人即死シ、負傷者モ多カリシカ、遂ニ、大ニ道路ヲ廣クセリ。

其ノ後、寛政、享和(二四六〇)ノ頃、古市町ノ、山田ヲセ、再ヒ、改修シテ、直道ニナシ、今ノ如キ道トナレリ。

○上部貞永、政ヲ執ル

後陽成天皇、天正十八年(三三五〇)ヨリ、慶長五年(三三六〇)迄、祠官上部越中守貞永、豊臣氏ノ祈禱師タルニヨリ、大坂ノ命ヲ受ケ、山田ノ政事ヲ執レリ。(五鈴遺響)

ソノ後、三奉行ト稱シ、稻葉藏人重成、古田兵部少輔吉勝、岡本下野守良勝ヲシテ、神領ノ政務ヲ執ラシム。

○秀吉、兩宮ニ寄附シ、且檢地ヲ止ム

後陽成天皇、文祿三年(三二五四)九月廿一日、秀吉ヨリ、多氣、度會二郡ノ内、三千百六十六石五斗ヲ、兩宮ニ寄附ス。

同年、秀吉、伊勢國ヲ檢地セシメシ時、雨森出雲守ヲシテ、神領ヲモ、檢地セシメシカ、宮川ヨリ内ハ、兩大神宮ノ御敷地ニテ、守護使不入ト稱シ、且古ヨリ檢地ノ御沙汰之ナキ所ニ付、御免アリタシト、兩宮ノ神官ヨリ願ヒ出テ、上使、歸リシ后、同年十一月十六日、秀吉ヨリ、朱印ヲ下シ、宮川ヨリ内ハ、大神宮敷地タルヲ以テ、檢地免除タルヘキ事及ヒ諸役免除ノ事等ヲ達セリ。(舊記)

同年十二月廿八日、更ニ、多氣郡ニテ、九百石ヲ、内宮ヘ、寄附セリ。

○中島合戦

後陽成天皇、慶長五年(三三六〇)ノ頃、鳥羽ノ城主、九鬼大隅守ト、伊勢岩出ノ城主、稻葉藏人頭通茂ト不和ナリシカ、山田、中島ノ北勝藏

岩出ヲ避ケテ、鳥羽ニ歸服シ、女ヲ以テ、大隅守ノ子、九鬼主殿ト、婚姻ノ約ヲナセリ。大隅守秀隆ハ、石田治部少輔ト、好ヲ通シ、藏人頭ハ、東軍ニ附キシヲ以テ、藏人頭ハ、鳥羽ヲ襲ハント欲シ、陰ニ軍備ヲ爲ス、九鬼家ニ於テハ、之ヲ聞キ、同年八月下旬、九鬼主殿、兵卒二百餘人ヲ率ヰテ、北家ニ隱ル、同九月朔日、藏人頭、九百餘騎ヲ以テ來リ攻ム。即ケ宮川ヲ渡リ、中河原ニテ、人數ヲ揣ヘ、中島ニ攻メ入リ、先手ハ、勝藏ノ固ムル北口ニ向フ、藏人頭ハ、堤ノ邊ニ、陣ヲ取リ、別ニ、東口、西口ヨリ之ヲ攻ム、北口遂ニ敗レ、敵ノ大勢、郭内ニ亂レ入り、火ヲ放チタリ。此ノ戰、同日辰ノ上刻ニ始リ、未ノ下刻ニ及ヒ、兩軍互ニ、死傷アリシカ、藏人頭、軍勢ヲ引キテ、岩出城ニ歸ル。九鬼大隅守、戰爭ノ始リシヲ聞キ、二千騎計ヲ率ヰテ、之ニ向ヒシニ、中途ニテ、中島ノ敗軍ヲ聞キ、翌日鳥羽ニ歸リタリ。(中嶋兵亂記)

○福原右馬助

福原右馬助直高ハ、豊後府内ノ城主ニテ、二万石ヲ領シ石田三成ノ妹婿ナリ。朝鮮陣ノ御目付トナリ渡海セシニ、私曲ノ事アリシニヨリ、佐和山ニ幽居セリ。慶長五年、關ヶ原ノ役起リシ時、再ヒ世ニ出テ、大垣ノ城ヲ守リ、石田三成、敗レシ後モ、猶城ヲ守リシカ、西尾豊後守光教ノ扱ニヨリテ、城ヲ開キ、入道シテ道蘊ト號シ、伊勢ノ朝熊永松庵ニ來レリ、而シテ、西尾豊後守、其外ノ諸將ヨリ、福原ノ一命ヲ助ケラレン事ヲ請ヒシモ、家康更ニ聞キ入レス、急キ切腹ヲ申付ヨトアリケレハ、西尾檢使ヲ遣シ、内府聽許ナキ故、力及ハズ、此ノ上ハ、覺悟セラルヘシト傳ヘケレハ、福原更ニ驚カズ、斯クアルヘキコトナリトテ、見事ニ切腹セリ。時ニ、同年十月二日ナリ。今、朝熊村、永松庵ノ境内ニ、高サ四尺餘、横二尺許ノ苔ムシタル石碑アリ。(丙午雜纂)

●宮川夜話草ニ曰ク、福原ハ、敗軍ノ後、一志町下之久保ノ御師、福田大夫〔今厚生尋常小學校敷地〕ノ家ニ落テ來リ隠レントス、關ヶ原ノ軍兵、又福田家ヲ困ミ、將ニ燒キ討ニセントス。福田、大ニ怖レ、討手ト密計シテ、福原ヲ、朝熊ニ退カシメ、終ニ討死ニ及ヘリ。福原、最期ニ恨ミテ曰ク、長袖ノ徒、頼ムニ甲斐ナシ、前ニ此ノ事ヲ告ケ知ラサバ、快ク死ヲ遂クヘキニ、僞リテ、コヽニイタスハ生々々々ノ遺恨ナリトテ、自殺シ。家臣二人モ、手痛ク、劬キ討死セリト。

○徳川家康ヨリ、朱印ヲ賜フ

慶長八年(三三六三)九月九日、徳川家康、舊ニヨリ、宮川内、其ノ他神領、守護不入タルヘキ事、諸法度、先規ニヨリ、年寄共、申シ付クヘキ事等ノ朱印ヲ下セリ。

此ノ時ハ、豊臣氏ノ時ト同シク、神領ハ、四千六十六石五斗ニ過ギス。

○山田奉行

家康將軍ノ代ニ及ヒ、山田三方ヨリ、奉行ヲ置カレントナリ請ヒ、慶長八年(三二六三)十一月、始テ長野内藏允ヲ、山田奉行ニ任シ、有瀧村ノ代官所ヨリ、曾瀨町、字高柳ニ出張セシメ、翌九年、日向半兵衛ヲ、同シク山田奉行ニ任シ、常磐町〔布世古、今ノ早修尋常小學校ノ地〕ニ出張セシメ、四月毎ニ交代シテ、政事ヲ執レリ。〔此ノ時ハ天領ノ代官ト山田奉行ト兼務ナラン〕寛永八年(三三九二)花房志摩守ノ時、奉行所ヲ、有瀧村ヨリ、小林村ニ移シ〔寛永十二年ヨリ政ヲ執ル〕且ツ公事屋敷ヲ、吹上町一本木ニ建テ、訴訟ヲ聽ケリ。

其ノ後、猶敷代ノ間、二人ノ奉行、交代シテ政事ヲ執リガ、享保十一年(三三八六)保科淡路守ノ時ヨリ、一人トナレリ。

山田奉行ハ、總テ四十八人ニテ明治維新トナレリ。

○家康、兩宮造營ニ付、寄附ス

慶長十四年(三二六九)二月九日、兩宮式年造營ニ付、前將軍徳川家康米六萬俵ヲ獻シ、爾後永例トナル。是ヨリ徳川氏、代々神宮ノ造營ヲナシ、二十一年目毎ニ、必正遷宮ヲ行ヒタリ。

○宮川ノ堤ヲ築ク

宮川ハ、昔ヨリ往々洪水アリテ、害ヲ被フルコト多シ、因リテ、山田奉行、中川半左衛門、幕府ニ訴ヘテ、料金若干ヲ賜ハリ、堤ヲ築クコトヲ宮川堤ノ始ニシテ、後水尾天皇ノ寛永元年ナリ。(三二八四)

○二見郷ヲ、神領ニ復ス

二見郷ハ、六ヶ村アリ、高二千百三十六石餘ノ地ニシテ元、神領ナリシニ、亂世ノ時、國司北畠氏ニ押領セラレ、其後、鳥羽ノ城主、九鬼氏ノ領地タリシニ、花房奉行、江戸ニ訴ヘ、同地ハ、垂仁天皇ノ御宇、内宮御鎮座ノ時ヨリ、御壙ヲ調進セシ由緒ヲ、上聞ニ達シ、寛永十年、

六月十三日、神領ニ復スヘシトノ朱印ヲ下附セラレタリ。

○福島正頼

福島正頼ハ、正則ノ弟ニテ、始メ豊臣氏ニ仕ヘ、伊勢長島ニテ、一万石ヲ領セリ。慶長五年、關ヶ原ノ役ニ、兄正則ト俱ニ、徳川氏ニ屬シ其ノ功ニヨリテ、大和宇多城ニ移リ、三万石ヲ領ス。元和元年(三二七五)六月、家臣ノ事ニヨリ、罪ヲ得テ、所領ヲ沒収セラレ、遂ニ、山田ニ落テ來リ、西河原邊ニ住居セシカ、寛永十年九月廿五日、同所ニテ卒シタリ。其ノ墓ハ、走下ノ北、越坂へ行ク道ノ東ニアリ。碑面ニ、福昌院殿前洒掃鉄叟道牛大居士ト刻セリ。

○前山ヲ神領ニ復ス

前山ハ、外宮御山ニ隣リテ、他領ナルヘキ地勢ニ非サルニ、亂世ノ頃ヨリ、一字田郷ニ屬シ、山田ヨリ、前山ニテ薪ヲ採ルニ、山手トイヒ

テ、年貢ヲ、一字田郷ニ出シ來レリ。山田ノ人民、此事ヲ當時ノ奉行、花房志摩守幸次ニ歎願シ、其推舉ヲ得テ、寛永十六年九月十日、願ノ趣聞キ届ケラレ、前山ノ地ハ、先規ノ如ク、神領ニ復シタリ。(世々の恵)

○岡本ニ通スル道ヲ開ク

往古ノ道ハ、外宮一ノ鳥居ヨリ、前野、下馬所ヲ、東ニ向ヒ、岩淵町ノ中程ヨリ、南ニ入りテ、岡本ノ里ニ至リ、宮崎ナル錦小河ヲ渡リ、小田村ヨリ、尾上山ヲ越エテ、宇治ニ赴キシカ、寛永十七年九月花房奉行ノ時、高神山ト、坊山ト連続セル所ヲ切り開キ、岡本ヘノ往來ヲ通セリ、今、外宮神苑ノ、須崎橋ヲ渡レル所ニシテ、高倉山ノ岩窟ニ至ル、口ナリ。神苑ヲ造ル前迄ハ、此ノ邊ヲ、堀切又ハ、山ノ腰ト云ヘリ。

○宮川堤ヲ嚴重ニス

宮川堤ハ、寛永元年ニ、之ヲ築キシカ、同廿一年八月廿八日、洪水ノ爲、三百間餘、破壊シタリ。因テ石川奉行幕府ニ訴へ、料金巨萬ヲ乞ヒ、正保四年(二三〇七)四月十五日、修繕ヲ加へ、今ノ如キ嚴重ナル大堤トナレリ。

○豊川ノ新道ヲ造ル

正保三年十二月四日、山田坂ノ世古ヨリ出火シ、三百二十戸ヲ焼キ、延キテ外宮御山ニ移リ、御本殿モ既ニ危ク見エシカ、風ノ方向變シ、漸ク其ノ災ヲ免レタリ。其后三度ノ火事ニ、二度モ御山ヘ延焼セシカハ、幕府ニ訴へ、慶安元年(二三〇八)五月十六日、豊川ニ繩張ヲナシ、人家七十軒余ヲ取拂ヒ、豊川ノ幅ヲ三間トシ、川端ニ、幅五間ノ新道ヲ造リ、七月十二日、落成セリ。是ヨリ、宮域ト、町家ト、堺目明カニナレリ。(世々のめくみ)

○豊宮崎文庫ヲ建ツ

慶安元年六月、外宮祠官、出口延佳等、同志七十人ヲ募リ、金壹両ツ
 ヲ出シテ、豊宮崎ニ、文庫ヲ建テ、神書、國史、歌書ヲ始メ、儒書
 醫書等ノ類ヲ、普ク集メ、且祠官輩ノ學問所トセリ。八木奉行、之ヲ
 永續セシメン爲、幕府ニ請ヒ、寛文三年三月、若干ノ金子ヲ下附セラ
 レ、且二十石ノ田地ヲ附ケテ、永代修理ノ料ニ充テラレタリ

○秋田城之介實季

奥州三春ノ城主、秋田城之介實季、國政不直ノ罪ニヨリ、此ノ地ニ謫
 セラレ、朝熊村永松庵ニ蟄居セシカ、萬治二年(二三一九)十一月廿九日、
 同院ニテ卒セリ。入道夙ニ、和歌、及ヒ茶道ヲ好ミ、書ヲ能クセリ。
 又醫藥ニ委シク今、秋田遺方ト稱シ、万金丹ヲ醫ケル家櫻木町ニアリ。

○月讀宮ノ宮域ヲ古ニ復ス

外宮月讀宮ノ宮域ハ、四面ニ、堀百二十丈アリテ、四至瑞垣ヲ距ルコト、
 廿二丈ツヽナルコト、神祇本源ニ見エタリ。然ルニ、亂世ノ頃ヨリ、塚
 目亂レ、家屋、寺院ヲ建ツルニ至レリ。禰宜常晨、之ヲ歎キ、八木奉
 行ニ訴ヘ、四方ノ人家ヲ引キ移シ、寺院ヲ破却シ、宮域ヲ四方四町ニ
 定メ、周圍ニ池ヲ穿テ、堤ヲ築キタリ。時ニ寛文二年(二三三二)八月ナ
 リ。其ノ後、十七年ノ間、堤頽レ、堀埋リテ、人民又々、宮域ヲ犯ス
 者アリシヲ以テ、延寶六年(二三三八)六月十八日、四隅ニ際目ノ木ヲ入
 レ、末代マテ、違犯ノ事ヲカラシメタリ。(世々のめくみ)

○尾上坂ノ墓ヲ妙見山ニ移ス

昔ハ、尾上坂(岡ノ)ノ左右ニ、墓所多クアリシカ、桑山奉行、參宮ノ往
 來ニ、カヽル不淨ノ地アルハ、恐レアリトテ、寛文九年七月墓所ヲ、
 妙見山ニ換ヘタリ。

其ノ後、寶曆五年(二四一五)二月、土人等相議シテ、尾上坂ノ道ヲ開ク。

○山田ノ大火事

靈元天皇、寛文十年(二三三〇)十一月廿四日、大間廣鉤屋世古ヨリ出火シ、上中之郷ヨリ、岡本ニ至ル、十七ヶ町、悉ク焼ケ失セタリ。其ノ家數、五千七百四十三軒、土藏千七百七十七棟、寺院百八十九、死人四十九人アリ、此ノ時、山田ノ總戸數、九千七百六十八軒アリケレハ、焼ケシ家數、半ニ過キタリ。桑山奉行、江府ニ訴ヘ、金壹万兩ヲ貸附シ、十ヶ年間ニ上納スヘキ由ヲ達セリ。

其ノ後、三十六年ヲ經テ、寶永三年十一月二日、中島ヨリ出火シ、妙見町(今尾上町)迄延焼シ、家數五千八百九十三軒、寺四十六ヶ焼失シ、死人二十一人アリ。此ノ時、火災ヲ免レシ戸數ハ、二千五百四十二軒ナリ。是ヲ以テ、先例ニ倣ヒ、桑山奉行ヨリ金一万〇七百三十兩ヲ貸

與セラレタリ。(世々のめくみ)

其ノ后、明和元年(二四二四)十二月十七日、中野ヨリ出火シ、小田橋迄延焼シ、戸數千九百三十、土藏百十一ヶ焼失シ、又先例ニヨリ、金三千五百七十餘兩ヲ貸與セラレタリ。(全上)

○宮域外ニ、火除地及ヒ百間堀ヲ設ク

寛文十年ノ大火ヨリ、又々宮中危シトテ、江府ニ上申シ翌十一年八月、北御門ヨリ、坂ノ世古マテ、宮域ニ近キ人家ヲ、大道ヨリ、十間斗リツ、退ケタリ。其ノ坪數、三千餘坪、家屋立退料、七百五十兩ナリキ。又翌十二年三月頃、北御門ノ橋ヨリ、坂ノ世古マテ、土手ヲ築キ堀ヲ穿ツ、長サ百八十間アリ。今是ヲ百間堀ト云フ。此普請ニ、金二百三十八兩ヲ費セリ。是ヨリ、宮域ト、町家ト、イヨク界ヲ隔テ、火災不淨ノ患ナキニ至レリ。

○寺院ヲ野外ニ退ク

昔ヨリ、神領内ハ、寺院ヲ建ツルヲ得サリシニ、亂世以後、宇治山田ニモ、多ク出來タリ。桑山奉行、寛文十年ノ大火ヲ好機會トシ、江府ニ上申シ、多少ニヨラス、寺院ニ、寺領ヲ寄附スルヲ、並ニ僧尼自力ニ買ヒ求ムルヲ禁シ、此度焼失セシ寺院ノ中、四十年來ノ開地ノ分、並ニ寺號ナキ分ハ潰シ、其ノ余ハ、野外ニ移轉セシメタリ。今ノ越坂、世義寺、前田等ノ寺院是ナリ。時ニ、寛文十一年五月十日ナリ。

○宮川ノ渡ヲ無錢トス

宮川ハ、亂世以後、北畠氏ノ支配ニテ、渡シ錢ヲ取り立テタルヲ、正親町天皇、天正三年(三三三五)十一月二日、北畠信意、小俣、川俣ノ兩渡共、其ノ賃錢ヲ山田三方ニ寄附シタリ。(世々のめぐみ)

其ノ后、川俣ノ渡ハ、紀州ノ支配トナリ、小俣ノ渡ハ、志州鳥羽ノ支配トナリ、舟賃ヲ取リテ渡セシカ、或ハ、舟賃ヲ貪リ、或ハ數多ノ人ヲ乗セテ、怪我人ヲ出スヲ度々アリ。其ノ内、延寶三年(三三三五)八月四日、小俣口ノ渡ニテ、舟ヲ乘リ沈メ、參宮ノ輩、數人溺死セルヨリ、爾來ハ、參宮人ヨリ、賃錢ヲ取ラス、神領内ヨリ渡シタキ旨、桑山奉行へ願ヒ、無錢トナレリ。

○宮川堤ノ上ニ棒堤ヲ築ク

靈元天皇、貞享元年(三三四四)十二月、宮川堤、修築料トシテ、銀子二十貫目ヲ下附セラレ、之ニ神領ヨリ、銀五貫目ヲ加ヘテ、翌二年、大堤ノ上ニ、棒堤ヲ築ク。

○林崎文庫ヲ創立ス

外宮、豊宮崎ノ文庫ニ倣ヒ、貞享四年、内宮祠官等、當時ノ奉行、岡部

美濃守ニ啓シテ、公命ヲ蒙リ、黄金百兩ヲ賜ハリ、宇治ノ丸山ニ、文庫ヲ創建セシカ、元祿三年(二三五〇)林崎ニ移セシニ、此ノ地、卑濕ニシテ、庫書ノ腐敗センヲ懼レ、文政四年(三四八一)再建シテ後方ニ移シ、石階ヲ造レリ。(五鈴遺響)

○拔ケ參リ

參宮人ノ夥シク出テシヲノ記録ニ存スルハ、元和(二二七五)及ヒ正保四年(二三〇七)等ナリ。其ノ后、慶安三年(三三一〇)三月ノ頃、江戸ノ商人ノ間ニ、拔ケ參リ大ニ流行シ、皆白衣ヲ着テ參宮セシカ、翌年、箱根ノ關所ニテ、通行帳ヲ改メシニ、一日五六百人、或ハ八九百人、三月中旬ヨリ五月迄ノ間、一日ニ二千百人、皆白衣ヲ着タリト云フ。蓋シ親兄弟ニモ告ケスシテ、拔ケ參リスルモノハ、時々アルヲニテ、當地ノ御師ニテ、旅費ヲ與ヘ歸ラシメタリ。

○寶永ノ御蔭參リ

其後五十六年ヲ經テ、東山天皇ノ、寶永二年(二三六五)四月上旬ヨリ、京并ニ、五畿内ノ人、拔ケ參宮トテ、山田ニ來ルモノ非常ニ多ク、初ハ、一日ニ、二三千人ナリシカ、十三日ヨリ、十六日迄、十万人ニ超エ。十七日ヨリハ、漸々減シテ、又廿四日、廿五日ハ、三四万人トナリ、夫ヨリ、大坂ヘ移リ、廿六七日ニハ、五六万人ツ、廿八九日ハ、十二三万人ツ、五月朔日ヨリ、七八万人、三日ヨリ、十二三万人、八日頃ヨリ、愈盛ニシテ、十六日ニハ、廿三万人ニ及ヘリ。是レ前後ニテ、最多キ時ナリ。其ノ后、漸ク減シテ、五月末ニハ、壹万人計トナレリ。凡四月九日ヨリ、五月廿九日迄、五十日ノ間、都テ、三百六十二万ノ參宮人アリタリト云フ。(山田故實集)

○明和ノ御蔭參リ

寶永ノ御蔭ヨリ、六十七年ヲ經テ、明和八年(二四三二)四月七日ニ至リ山城丹後邊ノ人、俄ニ參詣シ出シ、夫ヨリ后ハ、昨日ヨリ今日ト、イヤマシニ、其人毎ニ「おかけでさ、抜けとさ」ト呼ヒツ、足拍子ニ連レテ歩ミ來レルヨシ、中ニハ、一郡一組ニ、其國、其郡ナトノ名ヲ記セシ幟ヲ押シ立テ、行クモアリ、又父ニモ、兄ニモ許シテ受ケス俗ニ、抜ケ參リトテ、旅ノ用意モナキモノアリ。是ノ輩ニハ、山田、宇治ノ富人ヨリ、食物ヲ與ヘ、旅錢ヲ惠メリ。

此ノ時ハ、京大坂ハ、更ニモ言ハス、大津、奈良、堺、姫路、明石等、記シタル菅笠冠リシ人多ク、其外、大和、河内、近江、若狹、播磨、讃岐等ノ人、數フルニ違フラス、此ノ如ク夥シキ參詣人ナレハ、草履、わらんぞノ類ハ、皆賣リ切レ、物ノ憐レモ知ラヌ、商人ハ、俄ニ價ヲ高クシタレハ、旅費ニ乏シキ輩ハ、跣足ニテ苦シミ、土地ノ支配役所

ヨリハ物價ノ騰貴ヲ嚴シク禁スルニ至レリ。又、旅人宿ハ一軒二百五十人、二百人モ泊リ込ミ、宿ヲ取リカチ、軒下又ハ、橋上ニテ、露宿セシモノ多ク、富メル人々ハ、之ヲ見ルニ忍ヒス、施行宿、又ハ施駕、施行馬等ヲ出セリトソ。

六月ニ至リテハ、安藝、周防、出雲、岩見、筑前、肥前長崎ノ人多ク、中旬ニハ、越後、越前、常陸、武藏ノ人多ク出テタリ。此ノ御蔭ニハ御祓金銀等所々ニ降レリ。參宮人ハ、四月八日ヨリ、九月迄、總計二百七万七千四百五十人ノ多キニ及ヘリト云フ。(玉勝間)

○文政ノ御蔭參リ

明和八年ヨリ六十年日、文政十三年(二四九〇)ニ至リ、此ノ年ハ、年越ヲ始トシテ、正二月ニ至リ、東國筋ノ參宮人多カリケルニ、三月ニ至レハ、畿内中國筋ノ講參リナトモ、少々ツ、交リテ、賑カナリケルニ

三月頃ニ至リ、阿波國ヨリ、御蔭參リ始レリ。最初ハ、同國徳島佐古町八丁目寺小屋ニ、手習セシ小供等ガ、三月十九日、互ニ伊勢參宮イダシタキコトヲ語り合ヒシニ、翌廿日手習小供二三十人、打ツレテ參宮セリ。是御蔭參リノ始ナリ。夫ヨリ、紀州泉州、大坂、河内、淡路ナトモ交リ追々、大和、播磨、攝津、京、丹波、近江、山城、若狹ナトノ國人モ、多ク來リ、道中筋ハ元ヨリ、山田ノ里ニテモ、宿屋ハ、殘ラス詰リ切リ、寺院、商家ニテモ施行ニ、宿ラセタリ。此ノ日夜ノ群集ニ依リ、米ナトモ賣リ切ラシタルニ、尾張三河ノ國々ヨリ、船ニテ白米ヲ日夜ノ別ケナク、積ミ送リケルニヨリ、漸ク事ヲ缺カサリケリ。次ニ、不自由ナルハ、夜着蒲團ノ類、又ハ枕ナトニテ、枕ハ、古道具屋ニアルモノハ、皆買切リ、今ハ無シトテ、大工ナト呼寄セテ、俄ニ、杉ノ木ナト枕ニ切ラセタリ。草履わらんぞノ類モ、殘ラス賣リ切ラ

シ、是モ三河尾張ノ國々ヨリ、船ニテ積ミ送リタルニヨリサノミハ、事ヲカ、サリケリ。四月中旬ニ至リ、中國ノ國々來リ、又東國ニテハ、三河遠江ナトモ來リ、五月ヨリ六月ニナリテハ、加賀、能登、越前、越中、越後及ヒ關東ノ國々來レリ。七八月ハ、東國ノ參宮人ノミニテ中國筋ハ稀ニナレリ。此ノ時モ、御被所々ニ降り不思議ノコト多ク百九日間ニ、總計四百二十七万七千五百五十餘人ノ參詣人アリタリ。

〔文政神異記
文政の覺書〕

○大岡越前守

江戸、町奉行ニテ、有名ナル、大岡越前守忠相ハ、モト能登守ト云ヒ、正徳二年（二三七二）ヨリ、同六年マテ五年間、山田奉行ヲ勤メ、其ノ后、江戸ノ町奉行トナリ、天下ニ名ニ轟カセリ。

○僧月僊

畫ヲ以テ有名ナル、月僊ハ、寂照寺八代目ノ住職ナリ。寛保元年(二四〇一)尾張ノ名古屋ニ生ル、俗姓ハ、丹家氏、七歳ノ時佛門ニ入ル、性畫ヲ好ミ、師之ヲ禁スレトモ止メス、十餘歳ノ時、江戸ニ遊ヒ、書ヲ讀ミ、畫ヲ學フ、師、號ヲ月僊ト賜フ、後去リテ京都ニ遊フコト數年、遂ニ伊勢ニ來リ、寂照寺ヲ續ク、時ニ年三十四ナリ。月僊、畫ヲ能クシ、名海内ニ聞ユルヲ以テ、來リ請フモノ多ク、潤筆ノ料ヲ以テ、寺院ヲ建築シ、又文化二年(二四六五)冬千五百金ヲ官ニ上リ、其ノ利息ヲ以テ、神領ノ窮民ヲ賑ス、同六年正月十二日寂ス、壽六十九歳ナリ。

○内宮火除地ヲ設ク

天保四年(二四九三)火除ノ爲、内宮々域ニ近キ人家ヲ取り拂ヒ、一ノ鳥居前ニ、堀ヲ穿テ、五十鈴川ニ通シ、其ノ上ニ橋ヲ架セリ。

○足代弘訓

足代弘訓翁ハ、嘗テ永祿六年(二二二二)神宮ヲ造營セシ、弘興神主十一世ノ孫ニシテ、通稱、權大夫、寛居ト號ス、天明四年(二四四四)十一月廿六日ニ生ル、少クシテ、學ヲ好ミ、神典、國史、律令等ノ書ヲ研究シ、且和歌ニ長ス。翁常ニ、考證ヲ以テ務トシ、國史ニ明カナルヲ以テ、禁中ヨリ、咨詢セラレ、六國史人名部類若干卷ヲ撰ヒテ上リ、其ノ賞トシテ、仁孝天皇ヨリ、御硯ヲ賜ハル、常ニ客ヲ好ミ、諸國ノ文人ヨリ、雜藝ノ士ニ至ルマテ、食客絶ユル事ナシ。著書總計、千二百三十部、二千百七十九冊ニ及フ、而シテ翁ノ家集ハ、海士ノ囀リト名ケ、詠スル所ノ歌、數万首ニ及ヒ、近年刊行セリ。安政三年十一月五日、病ミテ卒ス、年七十三ナリ。

○兩宮ノ護衛兵、及ヒ海岸防禦

孝明天皇、文久三年(二五二三)四月、神宮護衛ノ爲、宇治ト、山田トニ

於テ、兵ヲ募リ、大宮司ヲ、總督ニ、三方ヲ、隊長ニシ、藤堂藩ノ軍
學師、水沼氏ノ訓練ヲ受ケ、軍隊ヲ編成シタリ。又、藤堂氏(和泉守)ハ、
海岸防禦ノ爲、一見郷ニ、陣屋ヲ置キ、三津村〔今賓日館
在ル所〕今一色村ノ海
岸ニ、臺場ヲ築キ、以テ外寇ニ備ヘタリ。

○外宮ノ入口ニ番所ヲ建ツ

文久三年八月廿八日、外宮兩御門口ニ、番所ヲ建ツ。

○最近ノ御蔭參リ

文政十三年ノ御蔭ヨリ、三十八年目ニ當リ、慶應三年(二五二七)八月十
七日、三河、遠江邊ヨリ、御蔭參リ始リ、參宮人ハ、昔ノ御蔭ノ如ク、
非常ニ多ク、御祓、所々ニ降り、人々、各異様ノ風ヲナシ狂氣ノ如ク
踊リ廻レリ。

○明治元年表

◎明治元年

〔慶應四年九月八日
明治元年ト改ム〕

○四月廿八日 山田一志久保町ヨリ、外宮月讀宮、北側土手外、南
北六間、東西廿一間ノ地ヲ寄附ス。

○七月二日 敕使、廣幡忠禮公、大廟ニ、大政一新ノ狀ヲ奏シ、
賊徒ノ速ニ鎮定センコトヲ祈ラル。

○七月六日 山田奉行ヲ廢シ、度會府ヲ置キ、橋本實梁、知事ニ
任セラル。

○十月十日 維新ノ際ニテ、神宮供御ノ制モ、未タ一定セサルニ
ヨリ、假ニ、米一万石ヲ度會府ニ下シ、當年九月ヨリ、翌年九月
ニ至ル、一ケ年ノ資用ニ充テラル。

○十二月八日 敕使、廣幡忠禮公、大廟ニ、東北平定ヲ奉告セラル。

●維新前ハ、外宮ニ四十末社、内宮ニ八十末社トテ、遠地ノ攝社、末社ヲ、宮域中ニ移シ、遙拜所ヲ建テシカ、維新ノ際、之ヲ取り拂へリ。

◎明治二年

○三月三日 神宮祈年祭ヲ再興セラル。

○三月十一日 今上天皇陛下、御參宮アラセラル。

○三月十四日 別宮ノ祈年祭ヲ再興セラル。

○七月十七日 度會府ヲ改メテ、度會縣トス。

◎明治四年

○五月十四日 祠官ノ世襲叙爵ヲ廢セラル。

○十一月廿二日 鳥羽久居ノ二藩ヲ廢シテ、度會縣ニ合シ、橋本實梁ヲ權令トス。

●此ノ時ノ管轄ハ、志摩全國、伊勢國ノ中、度會、多氣、飯野、飯高、一志ノ五郡、紀伊國牟婁郡ノ内、石高、三十四万石餘。戸數、七万七千九百五十九戸。

◎明治五年

○一月十四日 兵部省ニ令シ、名古屋分營、一小隊ヲ派遣シテ、兩宮ヲ守衛セシメシカ、同年五月ニ至リテ罷ム。

○二月十七日 權令、橋本實梁、轉任シ、平川光伸、安岡良介相尋テ參事トナル。

○五月廿六日 天皇陛下、御參宮アラセラル。

○六月十二日 僧尼ノ神宮參拜ヲ許可セラル。

○九月十五日 神宮御神號ノ太ノ字、自今、大ノ字ヲ用ユヘク達セ

◎明治七年

○九月二十日 名東縣權令、久保斷三、度會縣權令ニ任セララル。

◎同氏ハ、大ニ教育ニ心ヲ用井、宮崎文庫ニ、語學校ヲ起シ、英人
さんでまん氏ヲ聘シテ、洋學ヲ教ヘシメ、且漢學數學ヲ教授セシ
メタリ。又他縣ニ先テ、小學校ヲ創立シ、且師範學校ヲモ新築
セリ。

◎明治九年

○四月十八日 度會縣ヲ廢シテ、三重縣ニ合併ス。

○十二月十九日 山田近村ノ農民、暴動ヲ起シ、市街ニ亂入シテ、人
家ヲ燒キ、且三重縣山田支廳(元度會縣廳、岩淵町ニ在リ)及ヒ師範學校
(岡本町今裁判所ノ地)ヲ燒ケリ。

◎明治十五年

○四月二日 内宮、山口祭ヲ行フ。〔是ヨリ木曾山ニ
入リ木ヲ伐ル〕

○四月三日 外宮、山口祭ヲ行フ。(救使中川宮)

○四月廿六日 明治十六年ヨリ、神宮ニ於テ、曆ヲ頒布スヘキ旨ヲ
達セララル。

◎明治十六年

○二月十二日 内宮、御祝木トテ、神宮司人足ニテ、四本ノ木ヲ曳
ク。

○二月十三日 外宮、御祝木トテ、同シク三本ヲ曳ク。

○四月十一日 外宮附屬ノ町村、御木曳ヲ始ム。

○四月十六日 内宮附屬ノ町村、御木曳ヲ始ム。

◎御木曳ハ、翌十七年、更ニ第二回ヲ行ヘリ。

◎明治十九年

○六月九日 二見街道ノ汐合橋、落成ス。

○十月三十日 度會郡役所、新築成ル。

○十二月七日 名古屋鎮臺、當地ニ行軍ヲナシ、大佛山ニテ、演習
ヲナス。

○十二月 神苑會ヲ創立ス。

◎明治二十年

○二月十二日 二見、鳥羽間ノ道路ノ改修、落成ス。

○二月十七日 二見、賓日館成リ、開館式ヲ行フ、

○三月七日 皇太后宮陛下、御參宮アラセラル。

◎明治廿一年

○十二月廿七日 宮内省ヨリ、神苑會へ、金壹萬圓ヲ下賜セラレ、皇

后宮職、皇太后宮職ヨリ金五千圓ヲ下賜セラル。

◎又神宮司廳ヨリハ、創業ノ際、金三萬圓ヲ補助セラル。

◎明治廿二年

○三月廿六日 内宮ノ上棟祭ヲ行ハル。

○同日 宇治大橋ノ渡橋式ヲ行ヒ、前山ノ者渡リ初メヲナス。

○三月廿八日 外宮ノ上棟祭ヲ行ハル。

○五月 神苑ノ工事ヲ起シ、同年九月ニ至リ、功ヲ竣ル。

◎内宮神苑、二町五反一畝三步

◎外宮神苑、三町五反九畝二十步

○七月廿五日 内宮ノ石持始ル。

○八月一日 外宮ノ石持始ル。

○八月廿五日 両宮石持終ル。

○十月二日 内宮、正遷宮ヲ行ハル。

○十月五日 外宮、正遷宮ヲ行ハル。

◎明治廿四年

○四月 農業館ヲ開ク。(地面千九百五十坪 建坪二百五十坪)

○七月廿九日 皇太子殿下、御避暑ノ爲、一見賓日館ニ行啓アラセ

ラル。

○八月六日 皇太子殿下、御參宮アラセラル。

○八月二十日 皇太子殿下、御還啓アラセラル。

○十月廿九日 神宮祭主、久邇宮朝彦親王、薨セラル。

○十二月卅日 有栖川熾仁親王、神宮祭主ニ任セラル。

◎明治廿五年

○十二月十一日 内宮神苑地ニ於テ神苑ノ開苑式ヲ行フ。

◎明治廿七年

○八月十一日 敕使、九條道孝公両宮へ、日清開戦ノ奏告祭ヲ行ハ
ル。

○八月十一日 日清開戦中ニ付、神宮警衛トシテ、第三師團ノ大隊
本部ヲ、當地ニ置キ、後備兵、二中隊ヲ備ヘタリ。

◎明治廿八年

○一月廿四日 祭主有栖川熾仁親王、薨セラル。

賀陽宮邦憲王、祭主ニ任セラル。

○四月 敕使、九條公爵、日清戦争ノ平和克復ヲ、両宮へ奏

告セラル。

○五月廿五日 日清平和祝賀會ヲ、外宮神苑地ニ行フ。

○十月十五日 毎年十月十五、十六、十七ノ三日ヲ、宇治山田町ノ

大祭リト定メ、本年ヨリ行フ。

◎明治廿九年

○二月

明治廿八年二月五日ノ夜、我國水雷艇第九號及ヒ其
他ト共ニ、威海衛灣内ニ進入シ、清國軍艦來遠號ヲ砲撃セシ時分
捕リタル、十五珊ノ、くるつぷ式かのん砲身ヲ、戦役ノ紀念物ト
シテ、神苑會ヘ分與セラレ、農業館ノ前ニ、据エ付ケタリ。

○二月

明治廿八年二月、我第二軍、海軍ト力ヲ協セ、劉公
島及ヒ、日島ノ敵壘ヲ砲撃セル時、我カ鹿角嘴ヨリノ砲彈ヲ受ケ
タル、劉公島東南壘ニ据付アリシ、廿三珊ノくるつぷ臼砲ヲ第二
軍司令官大山大將ヨリ、内宮神苑地ニ獻納セラル。

○二月

明治廿七年十一月六日、我軍、金州城ヲ陷レンシ時、
敵ノ委棄セル大砲ヲ、大山大將ヨリ、外宮神苑地ニ獻納セラル。

◎度會郡古今ノ名家 (○印ハ存命)

○國學家

出口延佳

中西信慶

河崎延貞

歌人

黒瀨益弘

出口延經

喜早清在

久志本常彰

荒木田久老

橋村正身

橋村正兌

慶徳麗女

足代弘訓

八羽光穂

井坂徳辰

兒玉尙高

御巫清直

○橋村淳風

○漢學家

山口幻巷

河崎良佐

東吉尹

志毛井及時

鷹羽龍年

松田適齋

龍三五

河崎恪齋

宇野春溪

浦田長民

○書家

蒔田必需田器

川上葆川葆

松田雪柯

○久志本梅窓 為田只青 梅津克所

○畫家 僧月僊 岡村鳳水圓山派 上部菑齋四條派

小侯栗齋 蝶庵、文人派 書篆刻共ニヨシ 野村訥齋(大方電)

庄門為齋 大國士豐 水溜米室

林松岳 東佩 芳女 文人派 林棕林

○磯部百鱗

○俳諧 荒木田守武(俳諧ノ鼻祖) 足代弘氏(神風館初代)

岩田涼菟(神風館三代) 中川乙由(伊勢風ノ開祖 麥林舎ト號ス)

杉田望一(音律ニモ精シ) 杉木美津女

梅路 (河崎音頭ヲ始ム) 三浦樗良

○大主耕雨 西村殘雨(神風館十七代)

○物産學 春木煥光

○泰西學者 市川清流(山原村)

○禪學 僧風外(押淵村)

○篆刻家 久野二栗齋 中西笠山 福井端隱

上部紅於 ○松木香雲

○抹茶 杉木普齋(普齋流ヲ始ム) 廣辻松叟

○奇人 奥山桃雲(醫師)

○散樂 和屋大夫(一色村) 勝田大夫(通村)

青生大夫(竹ヶ鼻) 以上伊勢三座

三島竹翁(觀世流)

○興業家 河村太兵衛政良 (瑞賢ノ先代 奈屋浦ヲ開ク) 河村瑞賢(東宮村)

中西彦右衛門正直 (栗木廣ヲ開ク) 村田治三郎(阿曾村)

米山多右衛門宗隆同宗持 (圓座村ノ田ヲ開ク)

山田 丕々(古市牛谷ノ道ヲ開修ス)

松原 清藏(西ノ口新道ヲ作ル)

○殖産家 吉田善三郎(野後村)

○政治家 尾崎行雄(川端村)

○囲碁 福本是定 中西攝津初段 笠井末善初段

森左 柄四段 福井末縁 中根鳳次郎五段小林村

○擊劍家 橘正以 森島楠平

度會郡誌終

明治三十年四月二十一日印刷

明治三十年四月二十五日出版

定價金拾五錢

三重縣士族

著作 者 小 川 稠 吉

三重縣度會郡宇治山田町
大字岩淵町二百卅五番邸

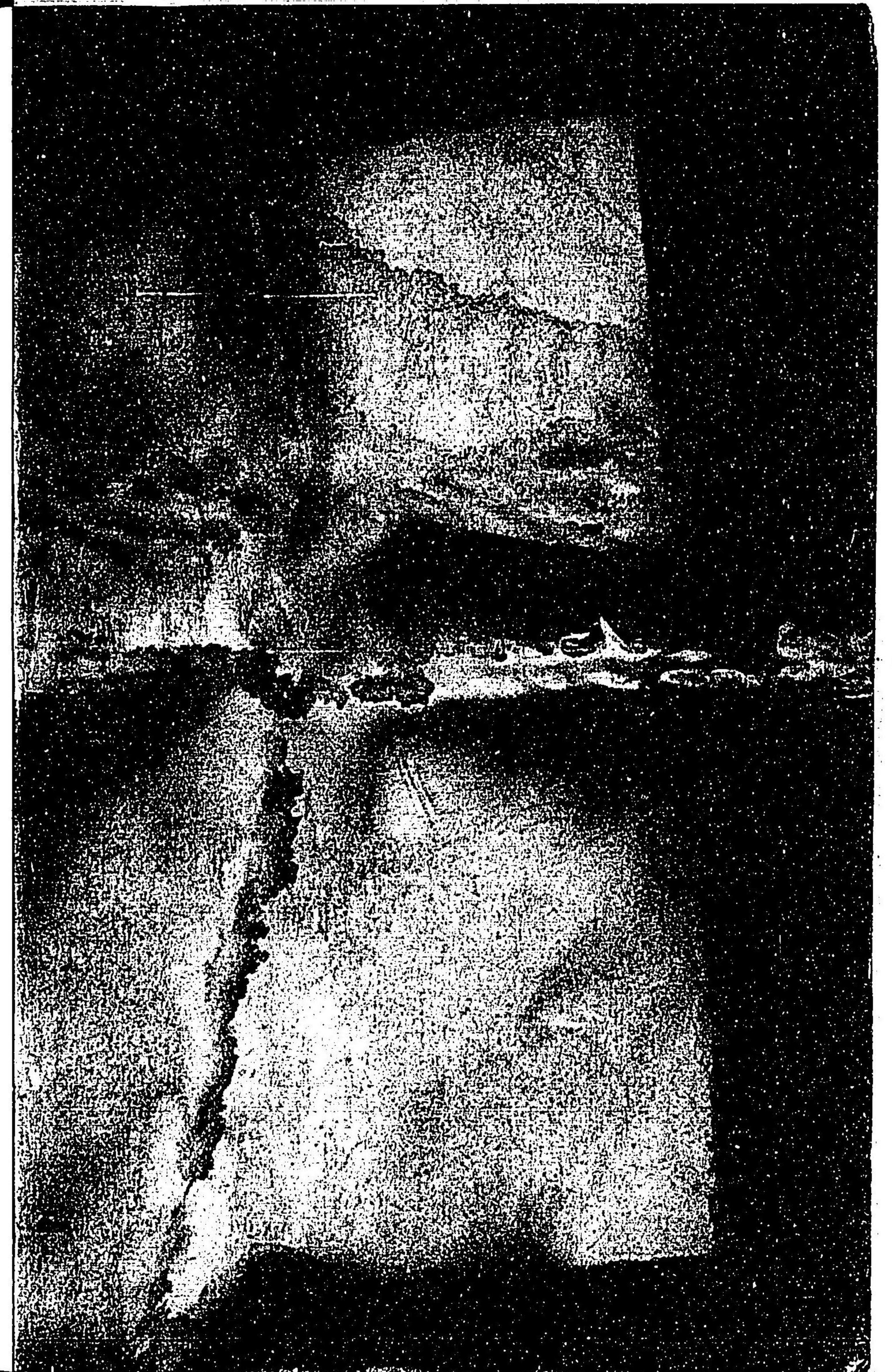
全縣平民

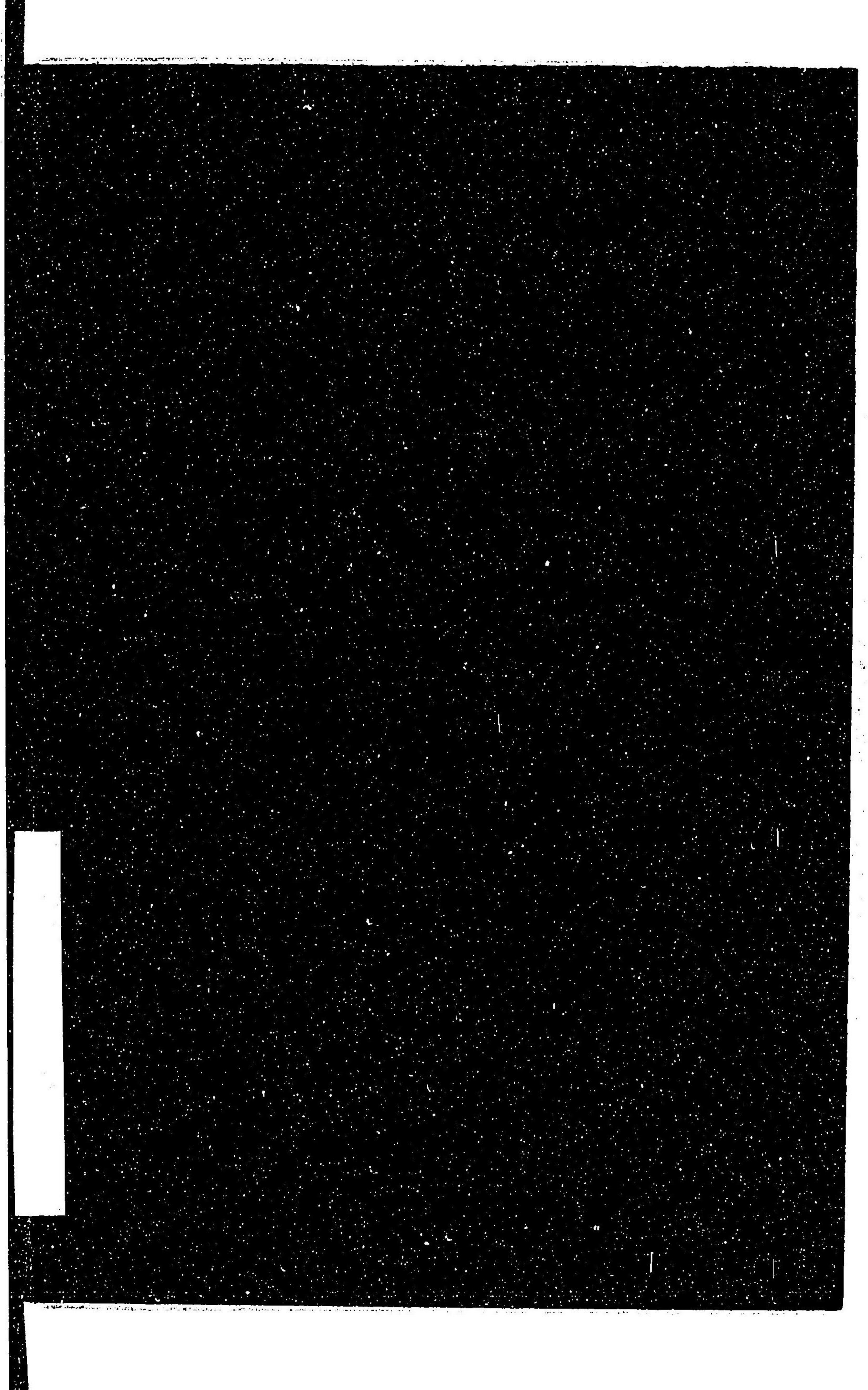
發行兼印刷者 箕 庸 人

全縣全郡全町大字全所
四十九番屋敷

隨時軒活版所印行

全縣全郡全町大字全所





特20
517

度会郡誌

国立国会図書館

025734-000-0

特20-517

度会郡誌

小川 稠吉/著

M30

ADC-3268

